

平成五年法律第四十四号

協同組織金融機関の優先出資に関する法律

目次

- 第一章 総則(第一条―第三条)
- 第二章 優先出資の発行(第四条―第十六条)
- 第三章 優先出資者の権利等(第十七条―第二十二条)
- 第四章 優先出資の譲渡等(第二十三条―第二十八条)
- 第五章 優先出資証券(第二十九条―第三十一条)
- 第六章 優先出資者総会(第三十二条―第四十条)
- 第七章 雑則(第四十一条―第五十五条)
- 第八章 罰則(第五十六条―第六十一条)

第一章 総則

第一条 (目的)

この法律は、協同組織金融機関について、自己資本の充実に資するため、普通出資を補充するものとして優先出資を発行できる制度を設けるとともに、優先出資者の権利の保護について定めることにより、協同組織金融機関の経営の健全性の確保を図ることを目的とする。(定義)

第二条 この法律において「協同組織金融機関」とは、次に掲げる者をいう。

- 一 農林中央金庫
- 二 信用協同組合及び中小企業等協同組合法(昭和二十四年法律第八十一号)第九条の九第一項第一号(信用協同組合連合会)の事業を行う協同組合連合会
- 三 信用金庫及び信用金庫連合会
- 四 労働金庫及び労働金庫連合会
- 五 農業協同組合及び農業協同組合連合会(農業協同組合法(昭和二十二年法律第三百三十二号)第十条第一項第三号(信用事業)の事業を行うものに限る。以下同じ。)
- 六 漁業協同組合(水産業協同組合法(昭和二十三年法律第二百四十二号)第十一条第一項第四号(信用事業)の事業を行うものに限る。以下同じ。)、漁業協同組合連合会(同法第八十七条第一項第四号(信用事業)の事業を行うものに限る。以下同じ。)、水産加工業協同組合(同法第九十三条第一項第二号(信用事業)の事業を行うものに限る。以下同じ。)、及び水産加工業協同組合連合会(同法

第九十七条第一項第二号(信用事業)の事業を行うものに限る。以下同じ。)

- 2 この法律において「連合会等」とは、前項第二号から第六号までに掲げる者をいう。
- 3 この法律において「根拠法」とは、次に掲げる法律をいう。
 - 一 農林中央金庫法(平成十三年法律第九十三号)
 - 二 中小企業等協同組合法
 - 三 協同組合による金融事業に関する法律(昭和二十四年法律第八十三号)
 - 四 信用金庫法(昭和二十六年法律第二百三十八号)
 - 五 労働金庫法(昭和二十八年法律第二百二十七号)
 - 六 農業協同組合法
 - 七 水産業協同組合法
- 4 この法律において「普通出資者」とは、農林中央金庫の会員及び連合会等の会員又は組合員をいう。
- 5 この法律において「普通出資」とは、普通出資者が根拠法に基づいて払込みを行った出資をいう。
- 6 この法律において「普通出資者総会」とは、根拠法に基づいて招集される協同組織金融機関の総会又は総代会をいう。
- 7 この法律において「理事」とは、農林中央金庫の理事及び連合会等の理事をいう。
- 8 この法律において「法定準備金」とは、根拠法に基づき協同組織金融機関が積み立てた準備金をいう。

第三条 この法律において会社法(平成十七年法律第八十六号)の規定を準用する場合において

は、特別の定めがある場合を除き、同法の規定中「会社」とあり、及び「株式会社」とあるのは「協同組織金融機関」と、「募集株式」とあるのは「募集優先出資」と、「電磁的方法」とあるのは「電磁的方法(協同組織金融機関の優先出資に関する法律(以下「優先出資法」という。))第九条第三項に規定する電磁的方法をいう。以下「電磁的記録(優先出資法第二十二條第一項第三号に規定する電磁的記録をいう。))」と、「法務省令」とあるのは「優先出資法第五十条第三項に規定する主務省令」と、「登録株式質権者」とあるのは「登録優先出資質権者」と、「株券発行会

社」とあるのは「優先出資証券発行協同組織金融機関(優先出資に係る優先出資証券を発行する旨を定款で定めた協同組織金融機関をいう。))」と、「株主名簿」とあるのは「優先出資者名簿」と、「株主名簿記載事項」とあるのは「優先出資者名簿記載事項」と、「株券」とあるのは「優先出資証券」と、「種類株式発行会社」とあるのは「種類優先出資発行協同組織金融機関(内容の異なる二以上の種類の優先出資を発行する協同組織金融機関をいう。))」と、「取締役」とあるのは「理事」と、「本店」とあるのは「主たる事務所」と、「営業時間」とあるのは「業務取扱時間」と読み替えるものとする。

第二章 優先出資の発行

第四条 協同組織金融機関は、この法律の定めるところにより、優先出資を発行することができる。

- 2 優先出資の総口数が、普通出資の総口数の二分の一を超えるに至ったときは、協同組織金融機関は、直ちに、優先出資の総口数を普通出資の総口数の二分の一以下にするために必要な措置をとらなければならない。
- 3 優先出資の額面金額は、均一で、かつ、普通出資の一口の金額と同一でなければならない。(定款記載事項)

第五条 協同組織金融機関は、優先出資を発行しようとするときは、その口数及び内容について次に掲げる事項を定款で定めなければならない。

- 一 優先出資の総口数の最高限度
- 二 優先的配当(普通出資者に対する剰余金の配当に先立つて優先出資者に対して行うべき剰余金の配当をいう。以下同じ。)の額の額面金額に対する率
- 三 優先出資者が優先的配当のほかに剰余金の配当を受けることができるときは、その旨及び優先出資者が受けることができるこれらの剰余金の配当の額の額面金額に対する率の最高限度
- 四 優先出資者に対する剰余金の配当の額が優先的配当の額を下回った場合にその下回った額が翌事業年度の優先的配当の額に加算されないときは、その旨
- 五 優先出資者に対する剰余財産の分配の内容

ごとに前項各号に掲げる事項を定めなければならない。

- 3 前項の規定にかかわらず、第一項第二号の率及び同項第三号の最高限度については、それぞれその上限を定めれば足りるものとする。この場合においては、同項第一号に掲げる事項については、その上限の異なることに定めなければならない。
- 4 第一項第二号の率及び同項第三号の最高限度(前項前段の規定により上限を定めるときは、その上限)については、主務大臣が定める率を超えてはならない。(募集事項の決定)
- 第六條 協同組織金融機関は、その発行する優先出資を引き受ける者の募集をしようとするときは、その都度、募集優先出資(当該募集に応じたこれらの優先出資の引受けの申込みをした者に対して割り当てる優先出資をいう。以下同じ。))について次に掲げる事項(以下「募集事項」という。)を定めて、行政庁の認可を受けなければならない。
 - 一 募集優先出資の内容及び口数
 - 二 募集優先出資の払込金額(募集優先出資一口と引換えに払い込む金銭の額をいう。以下同じ。)
 - 三 募集優先出資と引換えにする金銭の払込みの期日又はその期間
 - 四 増加する資本金及び資本準備金に関する事項
 - 五 募集優先出資の募集の方法
- 2 優先出資の払込金額は、額面金額を下回ってはならない。
- 3 第一項第二号の払込金額が優先出資者以外の者に対して特に有利な金額である場合には、第六章の定めるところにより、優先出資者総会を招集し、募集優先出資の内容、口数及び最低払込金額について、その承認を受けなければならない。この場合においては、理事は、優先出資者総会において、当該払込金額でその者の募集をすることを必要とする理由を説明しなければならない。
- 4 前項の場合における議案の要領は、優先出資者総会の招集通知に記載しなければならない。
- 5 第三項の承認の決議は、第一項第三号の期日(同号の期間を定めた場合にあつては、その期間の末日)が当該決議の日から六月以内の日で

ある同項の募集についてのみその効力を有する。

6 募集事項は、第一項の募集ごとに、均等に定めなければならない。
(募集事項の通知等)

第七条 協同組織金融機関は、前条第一項の募集事項を定めるときは、同項第三号の期日(同号の期間を定めた場合にあつては、その期間の初日)の二週間前までに、普通出資者及び優先出資者に対し、当該募集事項を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知は、公告をもってこれに代えることができる。

3 第一項の規定は、協同組織金融機関が募集事項について同項に規定する期日の二週間前までに金融商品取引法(昭和二十三年法律第二十五号)第四条第一項から第三項までの届出をしていない場合その他の普通出資者及び優先出資者の保護に欠けるおそれがないものとして主務省令で定める場合には、適用しない。
(優先出資者に優先出資の割当てを受ける権利を与える場合)

第八条 協同組織金融機関は、優先出資の募集において、優先出資者に優先出資の割当てを受ける権利を与えることができる。この場合においては、募集事項のほか、次に掲げる事項を定め、行政庁の認可を受けなければならない。

一 優先出資者に対し、次条第二項の申込みをすることにより当該協同組織金融機関の募集優先出資(内容の異なる二以上の種類の優先出資を発行する協同組織金融機関(以下「種類優先出資発行協同組織金融機関」という)にあつては、当該優先出資者の有する種類の優先出資と同一の種類のもの)の割当てを受ける権利を与える旨

二 前号の募集優先出資の引受けの申込みの期日

2 前項の場合には、同項第一号の優先出資者は、その有する優先出資の口数に応じて募集優先出資の割当てを受ける権利を有する。ただし、当該優先出資者が割当てを受ける募集優先出資の口数に一口に満たない端数があるときは、これを切り捨てるものとする。

3 協同組織金融機関は、第一項各号に掲げる事項を定めた場合には、同項第二号の期日の二週間前までに、同項第一号の優先出資者に対し、次に掲げる事項を通知しなければならない。

一 募集事項

二 当該優先出資者が割当てを受ける募集優先出資の口数

三 第一項第二号の期日

四 第六条第三項から第五項まで及び前条の規定は、前三項の規定により優先出資者に優先出資の割当てを受ける権利を与える場合には、適用しない。

第九條 協同組織金融機関は、第六条第一項の募集に於て募集優先出資の引受けの申込みをしようとする者に対し、次に掲げる事項を通知しなければならない。

一 協同組織金融機関の名称

二 普通出資一口の金額及び総口数

三 第五項第一号に規定する優先出資の総口数の最高限度

四 発行済優先出資の種類及び種類ごとの口数

五 募集事項

六 第十五条の規定により、協同組織金融機関が消却のために自己の優先出資を取得することがある旨

七 銀行等(銀行法(昭和五十六年法律第五十九号)第二条第一項に規定する銀行、信託業法(平成十六年法律第五十四号)第二条第二項に規定する信託会社その他これに準ずるものとして主務省令で定めるものをいう。)の申込みの取扱いの場所

八 前各号に掲げるもののほか、主務省令で定める事項

2 第六条第一項の募集に於て募集優先出資の引受けの申込みをする者は、次に掲げる事項を記載した書面を協同組織金融機関に交付しなければならない。

一 申込みをする者の氏名又は名称及び住所

二 引き受けようとする募集優先出資の口数

三 前項の申込みをする者は、同項の書面の交付に代えて、政令で定めるところにより、協同組織金融機関の承諾を得て、同項の書面に記載すべき事項を電磁的方法(電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であつて、主務省令で定めるものをいう。以下同じ。)により提供することができる。この場合において、当該申込みをした者は、同項の書面を交付したものとみなす。

4 第一項の規定は、協同組織金融機関が同項各号に掲げる事項を記載した金融商品取引法第二

条第十項に規定する目録見書を第一項の申込みをしようとする者に対して交付している場合その他募集優先出資の引受けの申込みをしようとする者の保護に欠けるおそれがないものとして主務省令で定める場合には、適用しない。

5 協同組織金融機関は、第一項各号に掲げる事項について変更があつたときは、直ちに、その旨及び当該変更があつた事項を第二項の申込みをした者(以下この章において「申込者」という。)に通知しなければならない。

6 協同組織金融機関が申込者に対してする通知又は催告は、第二項第一号の住所(当該申込者が別に通知又は催告を受ける場所又は連絡先を当該協同組織金融機関に通知した場合にあつては、その場所又は連絡先)にあつては発すれば足りる。

7 前項の通知又は催告は、その通知又は催告が通常到達すべきであつた時に、到達したものとみなす。

第十條 協同組織金融機関は、申込者の中から募集優先出資の割当てを受ける者を定め、かつ、その者に割り当てる募集優先出資の口数を定めなければならない。この場合において、協同組織金融機関は、当該申込者に割り当てる募集優先出資の口数を、前条第二項第二号の口数よりも減少することができる。

2 協同組織金融機関は、第六条第一項第三号の期日(同号の期間を定めた場合にあつては、その期間の初日)の前日までに、申込者に対し、当該申込者に割り当てる募集優先出資の口数を通知しなければならない。

3 第八条の規定により優先出資者に優先出資の割当てを受ける権利を与えた場合において、優先出資者が同条第一項第二号の期日までに前条第二項の申込みをしないときは、当該優先出資者は、募集優先出資の割当てを受ける権利を失う。

4 前条及び前三項の規定は、募集優先出資を引き受けようとする者がその総口数の引受けを行う契約を締結する場合には、適用しない。
(募集優先出資の引受け)

第十一條 次の各号に掲げる者は、当該各号に定める募集優先出資の口数について募集優先出資の引受けとなる。

一 申込者 協同組織金融機関の割り当てた募集優先出資の口数

二 前条第四項の契約により募集優先出資の総口数を引き受けた者 その者が引き受けた募集優先出資の口数

第十二條 募集優先出資の引受人は、第六条第一項第三号の期日又は同号の期間内に、第九条第一項第七号の申込みの取扱いの場所において、それぞれの募集優先出資の払込金額の全額を払い込まなければならない。

2 募集優先出資の引受人は、前項の規定による払込みを相殺することができない。

3 第一項の規定による払込みをするにより募集優先出資の優先出資者となる権利の譲渡は、協同組織金融機関に対抗することができない。

4 募集優先出資の引受人は、第一項の規定による払込みをしないときは、当該払込みをすることにより募集優先出資の優先出資者となる権利を失う。
(優先出資者となる時期等)

第十三條 募集優先出資の引受人は、次の各号に掲げる場合には、当該各号に定める日に、前条第一項の規定による払込みを行った募集優先出資の優先出資者となる。

一 第六条第一項第三号の期日

二 第六条第一項第三号の期間を定めた場合 前条第一項の払込みを行った日

2 募集優先出資の引受人は、次条第二項において準用する会社法第二百三十三條の二第一項第一号に掲げる場合には、同号に定める支払がされた後でなければ、出資の履行を仮装した募集優先出資について、優先出資者の権利を行使することができない。

二 前条第四項の契約により募集優先出資の総口数を引き受けた者 その者が引き受けた募集優先出資の口数

第十三條 募集優先出資の引受人は、次の各号に掲げる場合には、当該各号に定める日に、前条第一項の規定による払込みを行った募集優先出資の優先出資者となる。

一 第六条第一項第三号の期日

二 第六条第一項第三号の期間を定めた場合 前条第一項の払込みを行った日

2 募集優先出資の引受人は、次条第二項において準用する会社法第二百三十三條の二第一項第一号に掲げる場合には、同号に定める支払がされた後でなければ、出資の履行を仮装した募集優先出資について、優先出資者の権利を行使することができない。

3 前項の募集優先出資を譲り受けた者は、当該募集優先出資についての優先出資者の権利を行使することができない。ただし、その者に悪意又は重大な過失があるときは、この限りでない。
(優先出資の発行等についての会社法の準用)

第十四條 会社法第二百十條(募集株式の発行等を定めること)の請求)及び第二百十一條(引受けの無効又は取消しの制限)の規定は、協同組織金融機関の優先出資の募集及び発行について準用する。この場合においては「普通出資者又は優先出資者」と、「第九十九條第一項」とあるのは

「株主」と、「第九十九條第一項」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「募集優先出資」とあるのは

「優先出資法第六條第一項」と、「株式の発行又は自己株式の処分」とあるのは「優先出資の発行」と、同法第二百一十一條第一項中「第二百一十條第一項」とあるのは「優先出資法第十條第四項」と、同法第二項中「第二百九條第一項」とあるのは「優先出資法第十三條第一項」と読み替えるものとするほか、必要な技術的読替えは、政令で定める。

2

会社法第二百一十二條第一項（第二号を除く。以下この項において同じ。）（不正な払込金額で株式を引き受けた者等の責任）の規定は募集優先出資の引受人が理事又は経営管理委員と通じて著しく不正な払込金額で募集優先出資を引き受けた場合について、同法第二百一十三條の二（第一項第二号を除く。）（出資の履行を仮装した募集株式の引受人の責任）及び第二百一十三條の三（出資の履行を仮装した場合の取締役等の責任）の規定は募集優先出資の引受人が第十二條第一項の規定による払込みを仮装した場合について、同法第七編第二章第二節（第八百四十七條第二項、第八百四十七條の二、第八百四十七條の三、第八百四十九條第二項、第三項第二号及び第三号並びに第六項から第十一項まで、第八百四十九條の二、第八百五十一條並びに第八百五十三條第一項第二号及び第三号を除く。）（株式会社における責任追及等の訴え）の規定はこの項において準用する同法第二百一十二條第一項又は第二百一十三條の二第一項第一号の規定による支払を求める訴えについて、それぞれ準用する。この場合において、これらの規定（同法第八百四十七條の四第二項及び第八百四十九條第一項の規定を除く。）中「株主等」とあるのは「普通出資者又は優先出資者」と、これらの規定（同法第八百四十八條及び第八百四十九條第三項の規定を除く。）中「株式会社等」とあるのは「協同組織金融機関」と、同法第二百一十三條の二第二項中「総株主」とあるのは「総普通出資者及び総優先出資者」と、同法第二百一十三條の三第一項中「取締役（指名委員会等設置会社にあつては、執行役を含む。）」とあるのは「理事又は経営管理委員」と、同法第八百四十七條第一項（株主による責任追及等の訴え）中「株式を有する株主（第八百四十九條第二項の定款の定めによりその権利を行使することができない単元未満株主を除く。）」とあるのは「普通出資者又は優先出資者である者」と、同項ただし書中「株主」とあるのは「普通出資者

若しくは優先出資者」と、同法第三項及び第五項中「株主」とあるのは「普通出資者又は優先出資者」と、同法第四項中「株主又は同項の発起人等」とあるのは「普通出資者若しくは優先出資者又は理事若しくは経営管理委員」と、同法第八百四十七條の四第二項（責任追及等の訴えに係る訴訟費用等）中「株主等（株主、適格旧株主又は最終完全親会社等の株主をいう。以下この節において同じ。）」とあるのは「普通出資者又は優先出資者」と、「当該株主等」とあるのは「当該普通出資者又は優先出資者」と、同法第八百四十八條（訴えの管轄）中「株式会社又は株式交換等完全子会社（以下この節において「株式会社等」という。）」とあるのは「協同組織金融機関」と、同法第八百四十九條第一項（訴訟参加）中「株主等」とあるのは「普通出資者若しくは優先出資者」と、同法第三項中「株式会社等、株式交換等完全親会社又は最終完全親会社等が、当該株式会社等、当該株式交換等完全親会社の株式交換等完全子会社又は当該最終完全親会社等の完全子会社等である株式会社の取締役（監査等委員及び監査委員を除く。）、執行役及び清算人」とあるのは「協同組織金融機関が、理事及び経営管理委員」と、同法第五項中「株主」とあるのは「普通出資者若しくは優先出資者」と、同法第八百五十五條第四項（和解）中「第五十五條、第二百二條の二第二項、第二百三條第三項、第二百十條第五項、第二百一十三條の二第二項、第二百八十六條第四項、第二百四十二條第四項（第四百八十六條第四項において準用する場合を含む。）、第四百六十二條第三項（同項ただし書に規定する分配可能額を超える部分について負う義務に係る部分に限る。）、第四百六十四條第二項及び第四百六十五條第二項」とあるのは「農林中央金庫法第三十四條第三項、中小企業等協同組合法第三十八條の二第四項、信用金庫法第三十九條第三項、労働金庫法第四十二條第三項、農業協同組合法第三十五條の六第三項及び水産業協同組合法第三十九條の六第三項（同法第九十二條第三項、第九十六條第三項及び第九十條第三項において準用する場合を含む。）」と、同法第八百五十三條第一項第一号（再審の訴え）中「株主」とあるのは「普通出資者若しくは優先出資者」と読み替えるものとするほか、必要な技術的読替えは、政令で定める。

3

会社法第八百二十八條第一項（第二号に係る部分に限る。）及び第二項（第二号に係る部分

に限る。）（会社の組織に関する行為の無効の訴え）、第八百三十四條（第二号に係る部分に限る。）、（被告）、第八百三十五條第一項（訴えの管轄）、第八百三十六條第一項及び第三項（担保提供命令）、第八百三十七條から第八百四十四條まで（弁論等の必要の併合、認容判決の効力及びぶ者の範囲、無効又は取消しの判決の効力、新株発行の無効判決の効力）並びに第八百四十六條（原告が敗訴した場合の損害賠償責任）の規定は優先出資の発行の無効の訴えについて、同法第八百六十八條第一項（非訟事件の管轄）、第八百七十一條本文（理由の付記）、第八百七十二條（第二号に係る部分に限る。）、（即時抗告）、第八百七十三條本文（原裁判の執行停止）、第八百七十五條から第八百七十七條まで（非訟事件手続法の規定の適用除外、最高裁判所規則、審問等の必要の併合）及び第八百七十八條第一項（裁判の効力）の規定はこの項において準用する同法第八百四十條第二項の申立てについて、それぞれ準用する。この場合において、同法第八百二十八條第一項第二号中「六箇月以内（公開会社でない株式会社にあつては、株式の発行の効力が生じた日から一年以内）」とあるのは「六箇月以内」と、同法第二項第二号中「株主等」とあるのは「普通出資者、優先出資者、理事、経営管理委員、監事又は清算人」と、同法第八百四十條第一項中「払込みを受けた金額又は給付を受けた財産の給付の時に受けた金額」とあるのは「払込みを受けた金額」と、「旧株券（前条の規定により効力を失った株式に係る株券をいう。以下この節において同じ。）」とあるのは「旧優先出資証券（前条の規定により効力を失った優先出資に係る優先出資証券をいう。）」と、同法第二項中「株主」とあるのは「普通出資者又は優先出資者」と読み替えるものとするほか、必要な技術的読替えは、政令で定める。

4

会社法第八百二十九條（第一号に係る部分に限る。）、（新株発行等の不在の確認の訴え）、第八百三十四條（第十三号に係る部分に限る。）、（被告）、第八百三十五條第一項（訴えの管轄）、第八百三十六條第一項及び第三項（担保提供命令）、第八百三十七條（弁論等の必要の併合）、第八百三十八條（認容判決の効力及びぶ者の範囲）並びに第八百四十六條（原告が敗訴した場合の損害賠償責任）の規定は、優先出資の発行の不在の確認の訴えについて準用す

る。この場合において、必要な技術的読替えは、政令で定める。

第十五條 協同組織金融機関

協同組織金融機関は、次に掲げる場合には、普通出資者総会の決議によって、資本金の額を変更することなく、優先出資の消却を行うことができる。

- 第一十九條第一項の規定による剰余金の配当の限度額からその事業年度の優先的配当の額を控除して得た額の全部又は一部をもって自己の優先出資を取得して消却を行う場合
- 普通出資の増加によって得た資金をもって自己の優先出資を取得して消却を行う場合
- 協同組織金融機関は、優先出資の消却を行う場合とするときは、行政庁の認可を受けなければならない。
- 額面金額を超える額を取得の対価として第一項第二号の優先出資の消却を行う場合には、消却後の普通出資の総額と優先出資の額面金額に消却後の発行済優先出資の総口数に乗じて得た額の合計額は、資本金の額を超えてはならない。
- 第一項の決議は、協同組織金融機関の定款の変更の決議の例による。
- 会社法第二百一十九條（第一項各号、第二項各号及び第四項を除く。）（株券の提出に関する公告等）及び第二百二十條（株券の提出をすることができない場合）の規定は、優先出資を発行している協同組織金融機関が消却のために自己の優先出資を取得する場合について準用する。この場合において、同法第二百一十九條第一項中「当該各号に定める」とあるのは「消却のため取得する」と、「株券提出日の」とあるのは「当該取得の効力が生ずる日の」と、同法第二項中「株券提出日」とあるのは「当該取得の効力が生ずる日」と、「当該各号に定める者」とあるのは「当該優先出資証券発行協同組織金融機関」と、「金銭等」とあるのは「金銭」と、同法第三項中「第一項各号に定める」とあるのは「消却のために取得する」と、「株券提出日」とあるのは「当該取得の効力が生ずる日」と、同法第二百二十條第二項中「前条第二項各号に定める者は、前項」とあるのは「当該優先出資証券発行協同組織金融機関は、同項」と、「同条第二項の金銭等」とあるのは「前条第二項の金銭」と読み替えるものとするほか、必要な技術的読替えは、政令で定める。

第十六条 協同組織金融機関は、優先出資の分割をすることができる。

2 協同組織金融機関は、優先出資の分割をしようとするときは、その都度、普通出資者総会の決議によって、次に掲げる事項を定めなければならない。

一 優先出資の分割により増加する優先出資の総口数の優先出資の分割前の発行済優先出資（種類優先出資発行協同組織金融機関にあっては、第三号の種類の発行済優先出資）の総口数に対する割合及び当該優先出資の分割に係る一定の日

二 優先出資の分割がその効力を生ずる日

三 協同組織金融機関が種類優先出資発行協同組織金融機関である場合には、分割する優先出資の種類

3 協同組織金融機関は、優先出資の分割を行おうとするときは、行政庁の認可を受けなければならない。

4 普通出資の総額と優先出資の額面金額に分割後の発行済優先出資の総口数を乗じて得た額の合計額は、資本金の額を超えてはならない。

5 第二項の決議は、協同組織金融機関の定款の変更の決議の例による。

6 会社法第八十四条第一項（効力の発生等）及び第二百十五号第三項（株券の発行）の規定は、協同組織金融機関の優先出資の分割について準用する。この場合において、同法第八十四条第一項中「基準日において株主名簿に記載され、又は記録されている株主」とあるのは「優先出資法第十六条第二項第一号の一定の日において優先出資者名簿に記載され、又は記録されている優先出資者」と、同法第八十四条第一項中「前条第二項第三号の種類の種類株主」とあるのは「同項第三号の種類の優先出資の優先出資者」と、「基準日に有する」とあるのは「同項第一号の一定の日に有する」と、「数」とあるのは「口数」と、同法第二百十五号第三項中「第八十三号第二項第二号」とあるのは「優先出資法第十六条第二項第二号」と読み替えるものとするほか、必要な技術的読替えは、政令で定める。

7 会社法第二百三十四号第一項（各号を除く。）から第五項まで（一）に満たない端数の処理）、第八百六十八号第一項（非訟事件の管轄）、第

八百六十九号（疎明）、第八百七十一号（理由の付記）、第八百七十四号（第四号に係る部分に限る。）、（不服申立ての制限）、第八百七十五号（非訟事件手続法の規定の適用除外）及び第八百七十六号（最高裁判所規則）の規定は、協同組織金融機関の発行する優先出資の分割により一口に満たない端数を生ずる場合について準用する。この場合において、同法第二百三十四号第一項中「合計数」とあるのは「合計口数」と、「相当する数」とあるのは「相当する口数」と、同条第四項第一号中「数」とあるのは「口数」と、同条第五項中「取締役会設置会社においては、前項各号に掲げる事項の決定は、取締役会の決議」とあるのは「理事会を設置する協同組織金融機関においては、前項各号に掲げる事項の決定は、理事会の決議」と読み替えるものとするほか、必要な技術的読替えは、政令で定める。

第三章 優先出資者の権利等

（普通出資者総会における議決権等）

第十七条 優先出資者は、優先出資について、普通出資者総会における議決権その他の根拠法による普通出資者の権利を有しない。

第十八条 優先出資者の責任は、その有する優先出資の引受価額を限度とする。

第十九条 優先出資者に対する剰余金の配当は、事業年度終了の日における純資産の額（貸借対照表上の資産の額から負債の額を控除して得た額をいう。から次に掲げる金額を控除して得た額を限度として行うことができる。

一 資本金の額

二 資本準備金及び法定準備金の合計額

三 根拠法に基づいて当該事業年度において積み立てなければならない法定準備金の最低額

（農業協同組合又は漁業協同組合若しくは水産加工業協同組合にあっては、その額に農業協同組合法第五十一条第七項（剰余金の繰越し）又は水産業協同組合法第五十五条第七項（剰余金の繰越し）（同法第九十六条第三項において準用する場合を含む。）の規定に基づいて当該事業年度において翌事業年度に繰り越さなければならない繰越金の最低額を加えた額）

四 その他主務省令で定める額

普通出資者に対する剰余金の配当は、根拠法の規定にかかわらず、優先出資者に対する優先

的配当を行った後でなければ、行つてはならない。

3 優先出資者に対する剰余金の配当の額が優先的配当の額を下回ったときは、定款に別段の定めがある場合を除き、その下回った額は、翌事業年度の優先的配当の額に加算されるものとする。

4 前項の規定による加算がある場合には、第十五条第一項及びこの条の規定の適用については、その加算して得た額の剰余金の配当を翌事業年度の優先的配当とする。この場合において、第五条第一項第二号及び第三号の率の計算については、その加算した額は、剰余金の配当に含まれないものとする。

5 協同組織金融機関は、優先出資者に対する剰余金の配当の額を優先的配当の額を下回る額とする剰余金の処分を行おうとするときは、第六章に定めるところにより、優先出資者総会を召集し、その承認を受けなければならない。ただし、優先出資者に対する剰余金の配当の合計額が第一項の規定による剰余金の配当の限度額に等しいときは、この限りでない。

6 前項本文の場合において、理事は、優先出資者総会において、同項本文の剰余金の処分を行う理由を開示しなければならない。

7 第五項本文の場合における議案の要領は、優先出資者総会の招集通知に記載しなければならない。

8 協同組織金融機関は、連続する二以上の事業年度の確定した決算において第一項の規定による剰余金の配当の限度額が優先的配当の合計額を下回ることとなった場合には、決算確定後遅滞なく、第六章に定めるところにより優先出資者総会を召集し、その業務及び財産の状況を報告しなければならない。

9 前項の報告があった場合において、優先出資者は、発行済優先出資の総口数の十分の一以上を有する優先出資者の同意を得て、協同組織金融機関の業務の運営又は財産の管理が法令若しくは定款に違反し、又は著しく不当である旨を行政庁に対して申し出ることができる。

10 行政庁は、前項の申出があった場合において、その申出に理由があると認めるときは、根拠法に基づき必要な措置を採るものとする。

11 協同組織金融機関は、定款で定めるところにより、優先出資者に優先的配当のほかに、剰余金の配当を行うことができる。

12 第五項又は前項の剰余金の配当は、優先出資者の有する優先出資の口数（剰余金の配当について優先出資の種類ごとに異なる取扱いを行うこととする旨の定めがある場合にあつては、各種類の優先出資の口数）に応じたなければならない。

（優先出資者に対する剰余財産の分配）

第二十条 優先出資者に対する剰余財産の分配は、優先出資の額面金額（解散の日の直前の事業年度において、前条第三項の規定により翌事業年度の優先的配当の額に加算されるべき額があるときは、額面金額とその加算されるべき額との合計額）について、普通出資者に対する剰余財産の分配に先立って行うものとする。

2 協同組織金融機関は、定款で定めるところにより、優先出資者に前項の規定による剰余財産の分配のほかに、優先出資者の有する優先出資の口数又は各種種類の優先出資の口数に応じて、剰余財産の分配を行うことができる。

（共有者による権利の行使）

第二十一条 優先出資者が二以上の者の共有に属するときは、共有者は、当該優先出資についての権利を行使する者一人を定め、協同組織金融機関に対し、その者の氏名又は名称を通知しなければならないが、当該優先出資についての権利を行使することができない。ただし、協同組織金融機関が当該権利を行使することに同意した場合は、この限りでない。

（優先出資者のその他の権利）

第二十二条 優先出資者は、協同組織金融機関の業務取扱時間内は、いつでも、定款その他の事務所に備え置かれた政令で定める書類（以下この項において「定款等」という。）について、次に掲げる請求をすることができる。ただし、第二号又は第四号に掲げる請求をするには、当該協同組織金融機関の定めた費用を支払わなければならない。

一 定款等が書面をもって作成されているときは、当該書面の閲覧の請求

二 前号の書面の謄本又は抄本の交付の請求

三 定款等が電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるもの）として主務省令で定めるものをいう。以下同じ。）をもって作成されているときは、当該

電磁的記録に記録された事項を主務省令で定める方法により表示したものの閲覧の請求
 四 前号の電磁的記録に記録された事項を電磁的方法であつて主務省令で定めるものにより提供することの請求又はその事項を記載した書面の交付の請求

2 優先出資者は、協同組織金融機関の業務取扱時間内は、いつでも、普通出資者の名簿その他の事務所に備え置かれた政令で定める書類(以下この条において「名簿等」という。)について、次に掲げる請求をすることができる。この場合においては、当該請求の理由を明らかにしなくてはならない。
 一 名簿等が書面をもつて作成されているときは、当該書面の閲覧又は謄写の請求
 二 名簿等が電磁的記録をもつて作成されているときは、当該電磁的記録に記録された事項を主務省令で定める方法により表示したものの閲覧又は謄写の請求

3 優先出資者は、協同組織金融機関の業務取扱時間内は、いつでも、貸借対照表、損益計算書その他の事務所に備え置かれた政令で定める書類(以下この条において「計算書類等」という。)について、次に掲げる請求をすることができる。ただし、第二号又は第四号に掲げる請求をするには、当該協同組織金融機関の定めた費用を支払わなければならない。
 一 計算書類等が書面をもつて作成されているときは、当該書面又は当該書面の写しの閲覧の請求
 二 前号の書面の謄本又は抄本の交付の請求
 三 計算書類等が電磁的記録をもつて作成されているときは、当該電磁的記録に記録された事項を主務省令で定める方法により表示したものの閲覧の請求

4 協同組織金融機関は、第二項の請求があつたときは、次のいずれかに該当する場合を除き、これを拒むことができない。
 一 当該請求を行う優先出資者がその権利の確保又は行使に関する調査以外の目的で請求を行ったとき。
 二 優先出資者が当該協同組織金融機関の業務の遂行を妨げ、又は普通出資者及び優先出資

者の共同の利益を害する目的で請求を行ったとき。
 三 優先出資者が名簿等の閲覧又は謄写によって知り得た事実を利益を得て第三者に通報するため請求を行ったとき。
 四 優先出資者が、過去二年以内において、名簿等の閲覧又は謄写によって知り得た事実を利益を得て第三者に通報したことがあるものであるとき。
 五 次に掲げる訴えは、農林中央金庫又は連合会等の発行する優先出資の優先出資者も、提起することができない。
 一 農林中央金庫又は連合会等における出資一口の金額の減少の無効の訴え
 二 農林中央金庫又は連合会等の合併の無効の訴え
 三 農林中央金庫又は連合会等の役員等の責任を追及する訴え(農林中央金庫法第四十条の二、中小企業等協同組合法第三十九条、協同組合による金融事業に関する法律第五条の九第三項、信用金庫法第三十九条の六、労働金庫法第四十二条の六、農業協同組合法第四十条及び水産業協同組合法第四十四条に規定する役員等の責任を追及する訴えをいう。)
 六月(これを下回る期間を定款で定めた場合)にあつては、その期間)前から引き続き優先出資を有する農林中央金庫又は連合会等の優先出資者は、理事が協同組織金融機関の目的の範囲外の行為その他法令若しくは定款に違反する行為をし、又はこれらの行為をすることがある場合において、当該行為によつて当該協同組織金融機関に回復することができない損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめさせることを請求することができる。

6 協同組織金融機関は、優先出資の譲渡を制限することができる。
 2 協同組織金融機関は、優先出資の譲渡を制限してはならない。
 3 優先出資に係る優先出資証券を発行する旨を定款で定めた協同組織金融機関(以下「優先出資証券発行協同組織金融機関」という。)の優先出資の譲渡は、当該優先出資に係る優先出資証券を交付しなければ、その効力を生じない。ただし、自己優先出資の処分による優先出資の譲渡については、この限りでない。

4 優先出資証券の発行前にした譲渡は、優先出資証券発行協同組織金融機関に対し、その効力を生じない。
 5 優先出資証券の占有者は、当該優先出資証券に係る優先出資についての権利を適法に有するものと推定する。
 6 優先出資証券の交付を受けた者は、当該優先出資に係る優先出資証券についての権利を取得する。ただし、その者に悪意又は重大な過失があるときは、この限りでない。
 (優先出資の譲渡の對抗要件)
 第二十四条 優先出資の譲渡は、その優先出資を取得した者の氏名又は名称及び住所を優先出資者名簿に記載し、又は記録しなければ、協同組織金融機関その他の第三者に対抗することができない。
 2 優先出資証券発行協同組織金融機関における前項の規定の適用については、同項中「協同組織金融機関その他の第三者」とあるのは、「協同組織金融機関」とする。
 (優先出資者名簿等)
 第二十五条 協同組織金融機関は、優先出資者名簿を作成し、これに次に掲げる事項を記載し、又は記録しなければならない。
 一 優先出資者の氏名又は名称及び住所
 二 前号の優先出資者の有する優先出資の種類及び口数
 三 第一号の優先出資者が優先出資を取得した日
 四 優先出資証券発行協同組織金融機関である場合には、第二号の優先出資(優先出資証券が発行されているものに限る。)に係る優先出資証券の番号
 2 協同組織金融機関は、優先出資者名簿管理人(協同組織金融機関に代わつて優先出資者名簿の作成及び備置きその他の優先出資者名簿に関する事務を行う者をいう。以下同じ。)を置く旨を定款で定め、当該事務を行うことを委託することができる。
 (優先出資者名簿についての会社法の準用)
 第二十六条 会社法第二百二十二条(株主名簿記載事項を記載した書面の交付等)、第二百二十四条(第五項を除く。)(基準日)、第二百五十二条(第一項から第三項まで)(株主名簿の備置き及び閲覧等)、第三百三十二条第一項及び第三項(株主の請求によらない株主名簿記載事項の記載又は記録)、第三百三十三条(株主の請求による株主

名簿記載事項の記載又は記録)並びに第五百五十四条の二(信託財産に属する株式についての對抗要件等)の規定は協同組織金融機関の優先出資者名簿について、同法第二百二十六条(株主に對する通知等)及び第九十六条(第三項を除く。)(株主に對する通知の省略)の規定は優先出資の優先出資者に対する通知等について準用する。この場合において、同法第二百二十二条第一項中「前条第一号」とあり、及び同法第二百五十四條の二第二項中「第二百一十一條第一号」とあるのは「優先出資法第二十五条第一項第一号」と、同法第二百二十二条第二項中「株式会社」の代表取締役(指名委員会等設置会社にあつては、代表執行役。次項において同じ。)」とあり、及び同法第三項中「株式会社」の代表取締役」とあるのは「協同組織金融機関を代表する理事」と、同法第二百二十四条第一項、第二項及び第四項中「基準日株主」とあるのは「基準日優先出資者」と、同項中「株主總會又は種類株主總會」とあるのは「優先出資者總會」と、同法第二百五十二条第一項中「株主名簿管理人」とあるのは「優先出資者名簿管理人(優先出資法第二十五条第二項に規定する優先出資者名簿管理人をいう。)」と、同法第二項中「株主及び」とあるのは「普通出資者、優先出資者及び」と、同法第三項第一号中「株主又は」とあるのは「普通出資者、優先出資者又は」と、同法第三百三十三条第一項中「株式取得者」とあるのは「優先出資取得者」と、同法第二百二十六条第五項中「第二百九十九条第一項(第三百二十五条において準用する場合を含む。)」とあるのは「優先出資法第三十五条第四項」と読み替へるものとするほか、必要な技術的読替は、政令で定める。
 (優先出資に対する質権の設定)
 第二十七条 優先出資者は、その有する優先出資に質権を設定することができる。
 2 優先出資証券発行協同組織金融機関の優先出資の質入れは、当該優先出資に係る優先出資証券を交付しなければ、その効力を生じない。
 3 会社法第四百七条から第五十条まで(株式の質入れの對抗要件、株主名簿の記載等、株主名簿の記載事項を記載した書面の交付等、登録株式質権者に対する通知等)、第五百三十一條第一項(各号を除く。)、第五百五十一条第一項、第五百五十三条第三項並びに第五百五十四条第一項及び第二項(各号を除く。)(株式の質入れの効

力)及び第五百五十四條の二(信託財産に属する株式についての對抗要件等)の規定は協同組織金融機関の優先出資者名簿について、同法第二百二十六条(株主に對する通知等)及び第九十六条(第三項を除く。)(株主に對する通知の省略)の規定は優先出資の優先出資者に対する通知等について準用する。この場合において、同法第二百二十二条第一項中「前条第一号」とあり、及び同法第二百五十四條の二第二項中「第二百一十一條第一号」とあるのは「優先出資法第二十五条第一項第一号」と、同法第二百二十二条第二項中「株式会社」の代表取締役(指名委員会等設置会社にあつては、代表執行役。次項において同じ。)」とあり、及び同法第三項中「株式会社」の代表取締役」とあるのは「協同組織金融機関を代表する理事」と、同法第二百二十四条第一項、第二項及び第四項中「基準日株主」とあるのは「基準日優先出資者」と、同項中「株主總會又は種類株主總會」とあるのは「優先出資者總會」と、同法第二百五十二条第一項中「株主名簿管理人」とあるのは「優先出資者名簿管理人(優先出資法第二十五条第二項に規定する優先出資者名簿管理人をいう。)」と、同法第二項中「株主及び」とあるのは「普通出資者、優先出資者及び」と、同法第三項第一号中「株主又は」とあるのは「普通出資者、優先出資者又は」と、同法第三百三十三条第一項中「株式取得者」とあるのは「優先出資取得者」と、同法第二百二十六条第五項中「第二百九十九条第一項(第三百二十五条において準用する場合を含む。)」とあるのは「優先出資法第三十五条第四項」と読み替へるものとするほか、必要な技術的読替は、政令で定める。
 (優先出資に対する質権の設定)
 第二十七条 優先出資者は、その有する優先出資に質権を設定することができる。
 2 優先出資証券発行協同組織金融機関の優先出資の質入れは、当該優先出資に係る優先出資証券を交付しなければ、その効力を生じない。
 3 会社法第四百七条から第五十条まで(株式の質入れの對抗要件、株主名簿の記載等、株主名簿の記載事項を記載した書面の交付等、登録株式質権者に対する通知等)、第五百三十一條第一項(各号を除く。)、第五百五十一条第一項、第五百五十三条第三項並びに第五百五十四条第一項及び第二項(各号を除く。)(株式の質入れの効

力)及び第五百五十四條の二(信託財産に属する株式についての對抗要件等)の規定は協同組織金融機関の優先出資者名簿について、同法第二百二十六条(株主に對する通知等)及び第九十六条(第三項を除く。)(株主に對する通知の省略)の規定は優先出資の優先出資者に対する通知等について準用する。この場合において、同法第二百二十二条第一項中「前条第一号」とあり、及び同法第二百五十四條の二第二項中「第二百一十一條第一号」とあるのは「優先出資法第二十五条第一項第一号」と、同法第二百二十二条第二項中「株式会社」の代表取締役(指名委員会等設置会社にあつては、代表執行役。次項において同じ。)」とあり、及び同法第三項中「株式会社」の代表取締役」とあるのは「協同組織金融機関を代表する理事」と、同法第二百二十四条第一項、第二項及び第四項中「基準日株主」とあるのは「基準日優先出資者」と、同項中「株主總會又は種類株主總會」とあるのは「優先出資者總會」と、同法第二百五十二条第一項中「株主名簿管理人」とあるのは「優先出資者名簿管理人(優先出資法第二十五条第二項に規定する優先出資者名簿管理人をいう。)」と、同法第二項中「株主及び」とあるのは「普通出資者、優先出資者及び」と、同法第三項第一号中「株主又は」とあるのは「普通出資者、優先出資者又は」と、同法第三百三十三条第一項中「株式取得者」とあるのは「優先出資取得者」と、同法第二百二十六条第五項中「第二百九十九条第一項(第三百二十五条において準用する場合を含む。)」とあるのは「優先出資法第三十五条第四項」と読み替へるものとするほか、必要な技術的読替は、政令で定める。
 (優先出資に対する質権の設定)
 第二十七条 優先出資者は、その有する優先出資に質権を設定することができる。
 2 優先出資証券発行協同組織金融機関の優先出資の質入れは、当該優先出資に係る優先出資証券を交付しなければ、その効力を生じない。
 3 会社法第四百七条から第五十条まで(株式の質入れの對抗要件、株主名簿の記載等、株主名簿の記載事項を記載した書面の交付等、登録株式質権者に対する通知等)、第五百三十一條第一項(各号を除く。)、第五百五十一条第一項、第五百五十三条第三項並びに第五百五十四条第一項及び第二項(各号を除く。)(株式の質入れの効

力)及び第五百五十四條の二(信託財産に属する株式についての對抗要件等)の規定は協同組織金融機関の優先出資者名簿について、同法第二百二十六条(株主に對する通知等)及び第九十六条(第三項を除く。)(株主に對する通知の省略)の規定は優先出資の優先出資者に対する通知等について準用する。この場合において、同法第二百二十二条第一項中「前条第一号」とあり、及び同法第二百五十四條の二第二項中「第二百一十一條第一号」とあるのは「優先出資法第二十五条第一項第一号」と、同法第二百二十二条第二項中「株式会社」の代表取締役(指名委員会等設置会社にあつては、代表執行役。次項において同じ。)」とあり、及び同法第三項中「株式会社」の代表取締役」とあるのは「協同組織金融機関を代表する理事」と、同法第二百二十四条第一項、第二項及び第四項中「基準日株主」とあるのは「基準日優先出資者」と、同項中「株主總會又は種類株主總會」とあるのは「優先出資者總會」と、同法第二百五十二条第一項中「株主名簿管理人」とあるのは「優先出資者名簿管理人(優先出資法第二十五条第二項に規定する優先出資者名簿管理人をいう。)」と、同法第二項中「株主及び」とあるのは「普通出資者、優先出資者及び」と、同法第三項第一号中「株主又は」とあるのは「普通出資者、優先出資者又は」と、同法第三百三十三条第一項中「株式取得者」とあるのは「優先出資取得者」と、同法第二百二十六条第五項中「第二百九十九条第一項(第三百二十五条において準用する場合を含む。)」とあるのは「優先出資法第三十五条第四項」と読み替へるものとするほか、必要な技術的読替は、政令で定める。
 (優先出資に対する質権の設定)
 第二十七条 優先出資者は、その有する優先出資に質権を設定することができる。
 2 優先出資証券発行協同組織金融機関の優先出資の質入れは、当該優先出資に係る優先出資証券を交付しなければ、その効力を生じない。
 3 会社法第四百七条から第五十条まで(株式の質入れの對抗要件、株主名簿の記載等、株主名簿の記載事項を記載した書面の交付等、登録株式質権者に対する通知等)、第五百三十一條第一項(各号を除く。)、第五百五十一条第一項、第五百五十三条第三項並びに第五百五十四条第一項及び第二項(各号を除く。)(株式の質入れの効

る。)(被告)、第八百三十五條第一項(訴えの管轄)、第八百三十六條第一項及び第三項(担保提供命令)、第八百三十七條(弁論等の必要の併合)、第八百三十八條(認容判決の効力が及ぶ者の範囲)並びに第八百四十六條(原告が敗訴した場合の損害賠償責任)の規定は、優先出資者総会の決議の不存在若しくは無効の確認又は取消しの訴えについて準用する。この場合において、同法第八百三十一條第一項中「株主等(当該各号の株主総会等が創立総会又は種類創立総会である場合にあっては、株主等、設立時株主、設立時取締役又は設立時監査役」とあるのは「普通出資者、優先出資者、理事、経営管理委員、監事又は清算人」と、「株主(当該決議が創立総会の決議である場合にあっては、設立時株主)又は取締役(監査等委員会設置会社にあつては、監査等委員である取締役又はそれ以外の取締役。以下この項において同じ。)、監査役若しくは清算人(当該決議が株主総会又は種類株主総会の決議である場合にあっては、第三百四十六條第一項(第四百七十九條第四項において準用する場合を含む。))の規定により取締役、監査役又は清算人としての権利義務を有する者を含み、当該決議が創立総会又は種類創立総会の決議である場合にあっては、設立時取締役(設立しようとする株式会社が監査等委員会設置会社である場合にあっては、設立時監査等委員である設立時取締役又はそれ以外の取締役)又は設立時監査役を含む。」とあるのは「理事、経営管理委員、監事又は清算人(農林中央金庫法第三十九條第一項(同法第九十五條において準用する場合を含む。)、中小企業等協同組合法第三十六條の二(同法第六十九條において準用する場合を含む。)、信用金庫法第三十五條の三(同法第六十四條において準用する場合を含む。)、労働金庫法第三十七條(同法第六十八條において準用する場合を含む。))、農業協同組合法第三十九條第一項(同法第七十二條の三において準用する場合を含む。))又は水産業協同組合法第四十二條の二第一項(同法第九十二條第三項、第九十六條第三項及び第九百零三條第三項において準用する場合を含む。))の規定により理事、経営管理委員、監事又は清算人としての権利義務を有する者を含む。」と読み替へるものとするほか、必要な技術的読替へは、政令で定める。

第七章 雑則

(役員等の責任)

第四十一條 協同組織金融機関の役員等(理事、経営管理委員、監事及び会計監査人をいう。以下この条において同じ。)がこの法律若しくはこの法律に基づく命令又は優先出資者に関する定款の規定に違反したときは、協同組織金融機関に対し、これによつて生じた損害を賠償する責任を負う。

- 2 前項の行為によつて農林中央金庫又は連合会等に損害が生じたときは、次に掲げる農林中央金庫又は連合会等の役員等は、当該行為を行ったものと推定する。
 - 一 農林中央金庫又は連合会等が当該行為をすることを決定した役員等
 - 二 当該行為に關する理事会の承認の決議に賛成した役員等
- 3 第一項の役員等の責任は、総普通出資者及び総優先出資者の同意がなければ、免除することができない。
 - 4 前項の規定にかかわらず、第一項の責任は、農林中央金庫又は連合会等の役員等が職務を行うことにつき善意でかつ重大な過失がないときは、賠償の責任を負う額から、当該役員等がその執行中に農林中央金庫又は連合会等から職務上の利益の対価として受け、又は受けるべき財産上の利益の一年間当たりの額に相当する額として主務省令で定める方法により算定される額に次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数に乗じて得た額を控除して得た額を限度として、根拠法による普通出資者総会の特別の決議及び優先出資者総会の決議によつて免除することができる。
 - 一 農林中央金庫又は連合会等を代表する理事
 - 二 前号に掲げる理事以外の理事(第二条第一項第三号に掲げる者にあつては信用金庫法第三十九條第四項第二号に掲げるもの)に限り、第二條第一項第四号に掲げる者にあつては労働金庫法第四十二條第四項第二号に掲げるものに限る。)又は経営管理委員
 - 三 前二号に掲げる理事以外の理事、監事又は会計監査人
 - 二 前項に規定する「根拠法による普通出資者総会の特別の決議」とは、農林中央金庫にあつては農林中央金庫法第四十九條第一項、信用協同組合及び中小企業等協同組合法第九條の九第一項第一号の事業を行う協同組合連合会にあつては同法第五十三條、信用金庫及び信用金庫連合会にあつては信用金庫法第四十八條の三、労働金庫及び労働金庫連合会にあつては労働金庫法

- 5 第五十三條、農業協同組合及び農業協同組合連合会にあつては農業協同組合法第四十六條、漁業協同組合、漁業協同組合連合会、水産加工業協同組合及び水産加工業協同組合連合会にあつては水産業協同組合法第五十條(同法第九十二條第三項、第九十六條第三項及び第九百零三條第三項において準用する場合を含む。))の決議をいう。
 - 6 第四項の場合には、理事(農林中央金庫並びに経営管理委員を置く農業協同組合、農業協同組合連合会、漁業協同組合及び漁業協同組合連合会)にあつては、経営管理委員。次項において同じ。)、第四項の普通出資者総会及び優先出資者総会において次に掲げる事項を開示しなければならない。
 - 一 責任の原因となつた事実及び賠償の責任を負う額
 - 二 第四項の規定により免除することができる額の限度及びその算定の根拠
 - 三 責任を免除すべき理由及び免除額
 - 7 理事は、第四項の責任の免除に關する議案を同項の普通出資者総会及び優先出資者総会に提出するには、監事(監事が二人以上ある場合にあっては各監事とし、農林中央金庫にある場合は監事会とする。))の同意を得なければならない。
 - 8 第四項の普通出資者総会及び優先出資者総会の決議があつた場合において、農林中央金庫又は連合会等が当該決議後に同項の役員等に対し退職慰労金その他の主務省令で定める財産上の利益を与えるときは、普通出資者総会及び優先出資者総会の承認を受けなければならない。
 - 9 役員等が協同組織金融機関に生じた損害を賠償する責任を負う場合において、他の役員等も当該損害を賠償する責任を負うときは、これらの者は、連帯債務者とする。
 - 43 優先出資の払込金額のうち額面金額を超える額は、払込金額の二分の一の範囲内において、資本金として計上しないことができる。
 - 3 優先出資の払込金額のうち資本金として計上しない額は、資本準備金として計上しなければならない。

- 4 資本準備金は、損失のてん補に充てる場合を除くほか、その額を減少してはならない。ただし、行政庁の認可を受けて、その全部又は一部を資本金として計上する場合は、この限りでない。
 - 5 法定準備金をもつて損失のてん補に充ててもなお不足する場合でなければ、資本準備金をもつてこれに充てることはできない。
 - 43 協同組織金融機関の資本金の額等
 - 43 優先出資は、根拠法にいう出資ではない。
 - 2 前項の規定にかかわらず、優先出資を發行している協同組織金融機関の次の各号に掲げる法律の規定の適用については、この法律による資本金の額をもつて、当該協同組織金融機関の当該各号に定めるものとする。
 - 一 農林中央金庫法第四條(資本金)、第六十條(農林債の發行)、第七十六條第二項(準備金の積立)及び第七十七條第一項第一号(剰余金の配当)、資本金、払込資本金及び資本金の額
 - 二 協同組合による金融事業に關する法律第二條(出資の金額)及び第五條の十二第一号(剰余金の配当)、出資の総額、出資の額及び出資金
 - 三 信用金庫法第五條(出資の総額の最低限度)、第五十四條の二の四第一項(全国連合會の發行限度)、第五十六條第一項(法定準備金)及び第五十七條第一項第一号(剰余金の配当)、出資の総額
 - 四 労働金庫法第七條(出資の総額の最低限度)、第六十條第一項(法定準備金)及び第六十一條第一項第一号(剰余金の配当)、出資の総額
 - 五 農業協同組合法第十條の三(出資の総額の最低限度)、第十一條の十八第一号(共済事業に係る経営の健全性の基準)、第五十一條第二項(準備金)及び第五十二條第一項第一号(剰余金の配当)、出資の総額及び出資総額
 - 六 水産業協同組合法第十一條の四第一項(出資の総額の最低限度)(同法第九十二條第一項、第九十六條第一項及び第九百零三條第一項において準用する場合を含む。))、第十五條の三第一号(共済事業に係る経営の健全性の基準)(同法第九十六條第一項において準用する場合を含む。))、第五十五條第二項(準備金及び

繰越金) (同法第九十二条第三項、第九十六条第三項及び第九十六条第三項において準用する場合を含む。) 及び第五十六条第一項第一号(剰余金の配当) (同法第九十二条第三項、第九十六条第三項及び第九十六条第三項において準用する場合を含む。) 出資の総額及び出資総額

3 優先出資を發行している協同組織金融機関に對する次の各号に掲げる法律の規定の適用については、当該各号に定める規定に規定する準備金は、前条第三項に規定する資本準備金を含むものとする。

一 農林中央金庫法第七十七条第一項(剰余金の配当) 同項第二号
二 協同組合による金融事業に関する法律第五十二条(剰余金の配当) 同条第二号
三 信用金庫法第五十七条第一項(剰余金の配当) 同項第一号

四 労働金庫法第六十一条第一項(剰余金の配当) 同項第二号
五 農業協同組合法第五十二条第一項(剰余金の配当) 同項第一号
六 水産業協同組合法第五十六条第一項(剰余金の配当) (同法第九十二条第三項、第九十六条第三項及び第九十六条第三項において準用する場合を含む。) 同法第五十六条第一項第一号(同法第九十二条第三項、第九十六条第三項及び第九十六条第三項において準用する場合を含む。)

(優先出資に係る資本金の額の減少)
第四十四条 優先出資を發行している協同組織金融機関が、根拠法の規定に基づき普通出資一口の金額の減少の決議をしたときは、優先出資の額面金額も、同額に減少する。

2 前項の場合には、資本金の額は、従前の資本金の額から普通出資の総額の減少額と優先出資の額面金額の減少額に發行済優先出資の総口数に乗じて得た額の合計額を控除して得た額に減少する。

3 優先出資を發行している協同組織金融機関は、前二項に定める場合のほか、資本金の額の減少を行うことはできない。

第四十五条 協同組織金融機関は、優先出資を發行するときは、政令で定めるところにより、次に掲げる事項を登記しなければならない。これらの事項に変更を生じたときも、同様とする。

一 第五条第一項から第三項までの規定により定款で定めた優先出資の総口数の最高限度
二 発行済優先出資の総口数並びに種類及び種類ごとの口数
三 優先出資発行後の資本金の額から普通出資の総額を控除して得た額
四 優先出資証券発行協同組織金融機関であるときは、その旨
五 優先出資者名簿管理人を置いたときは、その氏名又は名称及び住所並びに営業所
六 第四十条第四項において準用する会社法第三百二十五条の二の規定による電子提供措置をとる旨の定款の定めがあるときは、その定め

2 前項の規定により登記を必要とする事項は、登記の後でなければ、これをもって第三者に對抗することができない。

3 この法律に基づく訴えに係る請求を認容する判決が確定したときは、裁判所書記官は、職権で、遅滞なく、協同組織金融機関の主たる事務所所在地を管轄する登記所にその登記を嘱託しなければならない。この場合においては、嘱託書に裁判書の謄本又は電子判決書(民事訴訟法(平成八年法律第九号)第二百五十二条第一項に規定する電子判決書(同法第二百五十二条第二項の規定により同法第九十一条の二第一項に規定するファイルに記録されたものに限る。)をいう。)に記録されている事項を記載した書面であつて裁判所書記官が当該書面の内容が当該ファイルに記録されている事項と同一であることを証明したものを添付しなければならない。

第四十六条 削除(届出事項)
第四十七条 協同組織金融機関は、この法律の規定による行政庁の認可を受けた事項を履行したときは、その旨を行政庁に届け出なければならない。(認可の条件)

第四十八条 行政庁は、この法律の規定による認可に条件を付し、及びこれを変更することができる。

第四十九条 協同組織金融機関がこの法律の規定による認可を受けた日から六月以内に当該認可を受けた事項を履行しなかつたときは、当該認可は、効力を失う。

(主管行政庁等)
第五十条 この法律中「行政庁」とあるのは、一の都道府県の区域を超えない区域を地区とする農業協同組合、漁業協同組合若しくは水産加工業協同組合又は一の都道府県の区域の一部をその地区の全部とする農業協同組合連合会、漁業協同組合連合会若しくは水産加工業協同組合連合会については都道府県知事、その他の協同組織金融機関については主務大臣とする。
2 この法律における主務大臣は、優先出資を發行する協同組織金融機関の根拠法に基づく主務大臣とする。
3 この法律における主務省令は、次の各号に掲げる協同組織金融機関の区分に従い、当該各号に定める者の発する命令とする。
一 農林中央金庫 農林水産大臣及び内閣総理大臣
二 信用協同組合及び中小企業等協同組合第九条の九第一項第一号(信用協同組合連合会)の事業を行う協同組合連合会 内閣総理大臣
三 信用金庫及び信用金庫連合会 内閣総理大臣
四 労働金庫及び労働金庫連合会 内閣総理大臣
五 厚生労働大臣
六 農業協同組合及び農業協同組合連合会 農林水産大臣及び内閣総理大臣
七 漁業協同組合、漁業協同組合連合会、水産加工業協同組合及び水産加工業協同組合連合会 農林水産大臣及び内閣総理大臣
第五十一条 この法律による主務大臣の権限であつて、前条の規定により内閣総理大臣の権限とされるもの(政令で定めるものを除く。)は、金融庁長官に委任する。
2 前項の規定により金融庁長官に委任された権限及びこの法律による農林水産大臣の権限の一部は、政令で定めるところにより、これを地方支分部局の長(金融庁長官に委任された権限にあつては、財務局長又は財務支局長)に委任することができる。
3 この法律による農林水産大臣又は厚生労働大臣の権限及び第一項の規定により金融庁長官に委任された権限に属する事務の一部は、政令で定めるところにより、都道府県知事が行うこととすることができる。
(書類の経由)
第五十二条 この法律又はこの法律に基づく命令の規定により内閣総理大臣又は金融庁長官及び

厚生労働大臣に提出する認可に関する申請書その他の書類で政令で定めるものの提出は、政令で定めるところにより、都道府県知事を経由して行わなければならない。
(事務の区分)
第五十三条 この法律(第五十一条第三項を除く。)の規定により都道府県が処理することとされている事務は、地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二条第九項第一号に規定する第一号法定受託事務とする。
(政令への委任)
第五十四条 この法律に定めるもののほか、優先出資者に対する剰余金の配当の支払の場所、この法律の規定による認可の手続その他この法律を実施するために必要な事項は、政令で定める。
(経過措置)
第五十五条 この法律の規定に基づき命令を制定し、又は改廃する場合においては、その命令で、その制定又は改廃に伴い合理的に必要とされる範囲内において、所要の経過措置(罰則に関する経過措置を含む。)を定めることができる。

第八章 罰則
第五十六条 協同組織金融機関の理事、経営管理委員若しくは監事又は支配人、参事その他事業に関するある種類若しくは特定の事項の委任を受けた使用人(以下「役員等」という。)は、次の各号のいずれかに該当する場合には、五年以下の拘禁刑若しくは五百万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。
一 何人の名義をもつてするかを問わず、協同組織金融機関の計算において不正にその優先出資を取得し、又は質権の目的としてその優先出資を受けたとき。
二 第十九条の規定又は第五条の規定に基づいて定められた定款の規定に違反して剰余金の配当を行ったとき。
三 優先出資を發行している協同組織金融機関の事業の範囲外において、投機取引のために当該協同組織金融機関の財産を処分したとき。
第五十七条 役員等又は優先出資の募集の委託を受けた者が、優先出資を引き受ける者の募集をするに当たり、協同組織金融機関の事業その他の事項に関する説明を記載した資料若しくは当該募集の広告その他の当該募集に関する文書で

厚生労働大臣に提出する認可に関する申請書その他の書類で政令で定めるものの提出は、政令で定めるところにより、都道府県知事を経由して行わなければならない。
(事務の区分)
第五十三条 この法律(第五十一条第三項を除く。)の規定により都道府県が処理することとされている事務は、地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二条第九項第一号に規定する第一号法定受託事務とする。
(政令への委任)
第五十四条 この法律に定めるもののほか、優先出資者に対する剰余金の配当の支払の場所、この法律の規定による認可の手続その他この法律を実施するために必要な事項は、政令で定める。
(経過措置)
第五十五条 この法律の規定に基づき命令を制定し、又は改廃する場合においては、その命令で、その制定又は改廃に伴い合理的に必要とされる範囲内において、所要の経過措置(罰則に関する経過措置を含む。)を定めることができる。

あつて重要な事項について虚偽の記載のあるものを行使し、又はこれらの書類の作成に代えて電磁的記録の作成がなされた場合における当該電磁的記録であつて重要な事項について虚偽の記録のあるものをその募集の事務の用に供したときは、五年以下の拘禁刑若しくは五百万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

2 優先出資の売出しを行う者が、その売出しに關する文書であつて重要な事項について虚偽の記載のあるものを行使し、又は当該文書の作成に代えて電磁的記録の作成がなされた場合における当該電磁的記録であつて重要な事項について虚偽の記録のあるものをその売出しの事務の用に供したときは、前項と同様とする。

第五十八條 役員等が、優先出資の発行に係る申込みを仮装するため預金を行ったときは、五年以下の拘禁刑若しくは五百万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。預金に依つた者も、同様とする。

第五十九條 理事が、第五條第一項第一号の定款に定められた最高限度を超えて優先出資を發行したときは、五年以下の拘禁刑又は五百万円以下の罰金に処する。

第六十條 法人（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものを含む。以下この項において同じ。）の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務又は財産に關し、第五十七條及び第五十八條の違反行為をしたときは、その行為者を罰するほか、その法人又は人に対して当該各条の罰金刑を科する。

2 前項の規定により法人でない団体を処罰する場合には、その代表者又は管理人がその訴訟行為につきその団体を代表するほか、法人を被告人又は被疑者とする場合の刑事訴訟に關する法律の規定を準用する。

第六十一條 協同組織金融機関の理事、経営管理委員、監事、支配人、参事、優先出資者名簿管理員又は清算人は、次の各号のいずれかに該當する場合に、百万円以下の過料に処する。ただし、その行為について刑を科すべきときは、この限りでない。

一 この法律（この法律において準用する会社法を含む。次号において同じ。）の規定による公告若しくは通知をすることを怠つたとき、又は不正の公告若しくは通知をしたとき、

二 この法律の規定に違反して、正当な理由がないのに、書類若しくは電磁的記録に記録された事項を主務省令で定める方法により表示したものの閲覧若しくは謄写又は書類の謄本若しくは抄本の交付、電磁的記録に記録された事項を電磁的方法により提供すること若しくはその事項を記載した書面の交付を拒んだとき。

三 第六條第一項、第八條第一項、第十五條第二項、第十六條第三項又は第四十二條第四項ただし書の規定により、行政庁又は主務大臣の認可を受けるべき場合に、その認可を受けなかつたとき。

四 第六條第三項後段の規定による説明又は第十九條第六項若しくは第四十一條第六項の規定による開示をすることを怠つたとき。

五 第二十條の規定に違反して、協同組織金融機関の残余財産を分配したとき。

六 優先出資者名簿、優先出資証券喪失登録簿、優先出資者総会の議事録又は第二十六條において準用する会社法第二百二十二條第一項若しくは第二十七條第三項において準用する同法第四百九十九條第一項の書面若しくは電磁的記録に記載し、若しくは記録すべき事項を記載せず、若しくは記録せず、又は虚偽の記載若しくは記録をしたとき。

七 第三十九條第二項若しくは第三項の規定又は第二十六條において準用する会社法第二百二十五條第一項、第三十一條第二項において準用する同法第二百三十一條第一項、第四十條第二項において準用する同法第三百十條第六項、第三百十一條第三項若しくは第三百十二條第四項若しくは第四十條第三項において準用する同法第三百十九條第二項の規定に違反して、書類又は電磁的記録を備え置かなかつたとき。

八 第二十八條第二項の規定に違反して、優先出資の消却の手續又は優先出資若しくは質権の処分を怠つたとき。

九 優先出資の發行の日前に優先出資証券を發行したとき。

十 第二十九條第二項の規定に違反して、遅滞なく優先出資証券を發行しなかつたとき。

十一 優先出資証券に記載すべき事項を記載せず、又は虚偽の記載をしたとき。

十二 第三十一條第二項において準用する会社法第二百二十五條第四項、第二百二十六條第

二項、第二百二十七條又は第二百二十九條第二項の規定に違反して、優先出資証券喪失登録を抹消しなかつたとき。

十三 第三十一條第二項において準用する会社法第二百三十條第一項の規定に違反して、優先出資者名簿に記載し、又は記録したとき。

十四 第六條第三項、第十九條第五項若しくは第八項又は第三十二條の規定に違反して、優先出資者総会を招集しなかつたとき。

十五 第四十條第四項において準用する会社法第二百二十五條第三項（第一号及び第四号から第六号までを除く。）の規定に違反して、電子提供措置をとらなかつたとき。

十六 優先出資者総会に対し虚偽の申述を行い、又は事実を隠蔽したとき。

十七 正当な理由がないのに、優先出資者総会において優先出資者の求めた事項について説明をしなかつたとき。

十八 第四十二條第三項の規定に違反して資本準備金を計上せず、又は同條第四項若しくは第五項の規定に違反して資本準備金の額を減少したとき。

十九 第四十五條の登記をすることを怠つたとき。

2 子会社の取締役若しくは執行役員が第二十八條第三項若しくは第五項の規定に違反して優先出資を取得し、又は優先出資の処分を怠つたときも、前項と同様とする。

附則 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則（平成八年六月二日法律第九四号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成九年四月一日から施行する。

（罰則の適用に關する経過措置）

第十二條 この法律の各改正規定の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる事項に係るこの法律の各改正規定の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（その他の経過措置の政令への委任）

第十三條 附則第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に關し必要な経過措置は、政令で定める。

附則（平成八年二月二六日法律第一一八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一月を経過した日から施行する。

附則（平成九年六月二〇日法律第一〇二号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、金融監督庁設置法（平成九年法律第一〇号）の施行の日から施行する。

（大蔵大臣等がした処分等に関する経過措置）

第二条 この法律による改正前の担保附社債信託法、信託業法、農林中央金庫法、無尽業法、銀行等の事務の簡素化に關する法律、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律、私的独占の禁止及び公正取引の確保に關する法律、農業協同組合法、証券取引法、損害保険料率算出団体に関する法律、水産業協同組合法、中小企業等協同組合法、協同組合による金融事業に関する法律、船主相互保険組合法、証券投資信託法、信用金庫法、長期信用銀行法、貸付信託法、中小漁業融資保証法、信用保証協会法、労働金庫法、外国為替銀行法、自動車損害賠償保障法、農業信用保証額法、金融機関の合併及び交換に關する法律、外国証券業者に関する法律、預金保険法、農村地域工業等導入促進法、農水産業協同組合貯金保険法、銀行法、貸金業の規制等に関する法律、有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律、抵当証券の規制等に関する法律、金融先物取引法、前払式証券の規制等に関する法律、商品投資に係る事業の規制に關する法律、国際的な協力の下に規制藥物に係る不正行為を助長する行為等の防止を因るための麻薬及び向精神薬取締法等の特例等に関する法律、特定債権等に係る事業の規制に關する法律、金融制度及び証券取引制度の改革のための関係法律の整備等に関する法律、協同組織金融機関の優先出資に関する法律、不動産特定共同事業法、保険業法、金融機関の更生手續の特例等に関する法律、農林中央金庫と信用農業協同組合連合会との合併等に関する法律、日本銀行法又は銀行持株会社の創設のための銀行等に係る合併手續の特例等に関する法律（以下「旧担保附社債信託法等」という。）の規定により大蔵大臣その他の国の機関がした免許、許可、認可、承認、指定その他の処分又は通知その他の行為は、この法律による改正後の担保附社債信

託法、信託業法、農林中央金庫法、無尽業法、銀行等の事務の簡素化に関する法律、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律、農業協同組合法、証券取引法、損害保険料率算出団体に関する法律、水産業協同組合法、中小企業等協同組合法、協同組合による金融事業に関する法律、船主相互保険組合法、証券投資信託法、信用金庫法、長期信用銀行法、貸付信託法、中小漁業融資保証法、信用保証協会法、労働金庫法、外国為替銀行法、自動車損害賠償保障法、農業信用保証法、金融機関の合併及び転換に関する法律、外国証券業者に関する法律、預金保険法、農村地域工業等導入促進法、農水産業協同組合貯金保険法、銀行法、貸金業の規制等に関する法律、有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律、抵当証券の規制等に関する法律、金融先物取引法、前払式証券の規制等に関する法律、商品投資に係る事業の規制に関する法律、国際的な協力の下に規制薬物に係る不正行為を助長する行為等の防止を図るための麻薬及び向精神薬取締法等の特例等に関する法律、特定債権等に係る事業の規制に関する法律、金融制度及び証券取引制度の改革のための関係法律の整備等に関する法律、協同組織金融機関の優先出資に関する法律、不動産特定共同事業法、保険業法、金融機関の更生手続の特例等に関する法律、農林中央金庫と信用農業協同組合連合会との合併等に関する法律、日本銀行法又は銀行持株会社の創設のための銀行等に係る合併手続の特例等に関する法律（以下「新担保附社債信託法等」という。）の相当規定に基づいて、内閣総理大臣その他の相当の国の機関がした免許、許可、認可、承認、指定その他の処分又は通知その他の行為とみなす。

2 この法律の施行の際現に旧担保附社債信託法等の規定により大蔵大臣その他の国の機関に対して行われていた申請、届出その他の行為は、新担保附社債信託法等の相当規定に基づいて、内閣総理大臣その他の相当の国の機関に対して行われた申請、届出その他の行為とみなす。

3 旧担保附社債信託法等の規定により大蔵大臣その他の国の機関に対し報告、届出、提出その他の法律の施行をしなければならない事項で、この法律の施行の日前にその手続がされていないものについては、これを、新担保附社債信託法等の相当規定により内閣総理大臣その他の相当の国の機関に対して報告、届出、提出その他の手続がなければならない事項として、その手続がされていないものとする。

この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。

附則（平成九年二月二〇日法律第一一七号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。

附則（平成九年二月二二日法律第一二二号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、持株会社の設立等の禁止の解除に伴う金融関係法律の整備等に関する法律（平成九年法律第二百十号）の施行の日から施行する。

附則（平成一〇年一〇月二六日法律第一三二号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、金融再生委員会設置法（平成十年法律第三百十号）の施行の日から施行する。

第二条 この法律による改正前の担保附社債信託法、信託業法、農林中央金庫法、無尽業法、銀行等の事務の簡素化に関する法律、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律、農業協同組合法、損害保険料率算出団体に関する法律、水産業協同組合法、中小企業等協同組合法、協同組合による金融事業に関する法律、地方税法、証券投資信託及び証券投資法人に関する法律、信用金庫法、長期信用銀行法、貸付信託法、中小漁業融資保証法、信用保証協会法、労働金庫法、自動車損害賠償保障法、農業信用保証法、地震保険に関する法律、登録免許税法、金融機関の合併及び転換に関する法律、外国証券業者に関する法律、農村地域工業等導入促進法、農水産業協同組合貯金

の機関に対して報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項についてその手続がされていないものとみなして、新担保附社債信託法等の規定を適用する。

この法律の施行の際現に旧担保附社債信託法等の規定に基づき命令は、新担保附社債信託法等の相当規定に基づき命令とする。

の機関に対して報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項についてその手続がされていないものとみなして、新担保附社債信託法等の規定を適用する。

第三条 この法律の施行の際現に効力を有する旧担保附社債信託法等の規定に基づく命令は、新担保附社債信託法等の相当規定に基づく命令としての効力を有するものとする。

第五条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

第六条 附則第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則（平成九年六月二四日法律第一〇三号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、公布の日から施行する。

附則（平成九年二月一〇日法律第一一七号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。

附則（平成九年二月二二日法律第一二二号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、持株会社の設立等の禁止の解除に伴う金融関係法律の整備等に関する法律（平成九年法律第二百十号）の施行の日から施行する。

附則（平成一〇年一〇月二六日法律第一三二号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、金融再生委員会設置法（平成十年法律第三百十号）の施行の日から施行する。

第二条 この法律による改正前の担保附社債信託法、信託業法、農林中央金庫法、無尽業法、銀行等の事務の簡素化に関する法律、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律、農業協同組合法、損害保険料率算出団体に関する法律、水産業協同組合法、中小企業等協同組合法、協同組合による金融事業に関する法律、地方税法、証券投資信託及び証券投資法人に関する法律、信用金庫法、長期信用銀行法、貸付信託法、中小漁業融資保証法、信用保証協会法、労働金庫法、自動車損害賠償保障法、農業信用保証法、地震保険に関する法律、登録免許税法、金融機関の合併及び転換に関する法律、外国証券業者に関する法律、農村地域工業等導入促進法、農水産業協同組合貯金

保証法、銀行法、貸金業の規制等に関する法律、有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律、金融先物取引法、前払式証券の規制等に関する法律、農林中央金庫と信用農業協同組合連合会との合併等に関する法律、日本銀行法、銀行持株会社の創設のための銀行等に係る合併手続の特例等に関する法律、特定目的会社による特定資産の流動化に関する法律又は金融システム改革のための関係法律の整備等に関する法律（以下「旧担保附社債信託法等」という。）の規定により内閣総理大臣その他の国の機関がした免許、許可、認可、承認、指定その他の処分又は通知その他の行為は、この法律による改正後の担保附社債信託法、信託業法、農林中央金庫法、無尽業法、銀行等の事務の簡素化に関する法律、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律、農業協同組合法、証券取引法、損害保険料率算出団体に関する法律、水産業協同組合法、中小企業等協同組合法、協同組合による金融事業に関する法律、地方税法、証券投資信託及び証券投資法人に関する法律、信用金庫法、長期信用銀行法、貸付信託法、中小漁業融資保証法、信用保証協会法、労働金庫法、自動車損害賠償保障法、農業信用保証法、地震保険に関する法律、登録免許税法、金融機関の合併及び転換に関する法律、外国証券業者に関する法律、農村地域工業等導入促進法、農水産業協同組合貯金

保証法、銀行法、貸金業の規制等に関する法律、有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律、抵当証券の規制等に関する法律、金融先物取引法、前払式証券の規制等に関する法律、商品投資に係る事業の規制に関する法律、国際的な協力の下に規制薬物に係る不正行為を助長する行為等の防止を図るための麻薬及び向精神薬取締法等の特例等に関する法律、特定債権等に係る事業の規制に関する法律、金融制度及び証券取引制度の改革のための関係法律の整備等に関する法律、協同組織金融機関の優先出資に関する法律、不動産特定共同事業法、保険業法、金融機関等の更生手続の特例等に関する法律、農林中央金庫と信用農業協同組合連合会との合併等に関する法律、日本銀行法、銀行持株会社の創設のための銀行等に係る合併手続の特例等に関する法律、特定目的会社による特定資産の流動化に関する法律又は金融システム改革のための関係法律の整備等に関する法律（以下「新担保附社債信託法等」という。）の相当規定に基づいて、金融再生委員会その他の相当の国の機関がした免許、許可、認可、承認、指定その他の処分又は通知その他の行為とみなす。

2 この法律の施行の際現に旧担保附社債信託法等の規定により内閣総理大臣その他の国の機関に対して行われていた申請、届出その他の行為は、新担保附社債信託法等の相当規定に基づいて、内閣総理大臣その他の相当の国の機関に対して行われた申請、届出その他の行為とみなす。

3 旧担保附社債信託法等の規定により内閣総理大臣その他の国の機関に対し報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項で、この法律の施行の日前にその手続がされていないものについては、これを、新担保附社債信託法等の相当規定により金融再生委員会その他の相当の国の機関に対して報告、届出、提出その他の手続がなければならない事項として、その手続がされていないものとする。

第三条 この法律の施行の際現に効力を有する旧担保附社債信託法等の規定に基づく命令は、新担保附社債信託法等の相当規定に基づく命令としての効力を有するものとする。

第四条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(政令への委任)
第五条 前三条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則 (平成二十一年八月三十一日法律第一二五号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第一条中商法第二百八十五条ノ四、第二百八十五条ノ五第二項、第二百八十五条ノ六第二項及び第三項、第二百九十条第一項並びに第二百九十三条ノ五第三項の改正規定並びに附則第六条中農林中央金庫法(大正十二年法律第四十二号)第二十三條第三項及び第二十四條第一項の改正規定、附則第七條中商工組合中央金庫法(昭和十一年法律第十四号)第三十九條ノ三第三項及び第四十條ノ二第一項の改正規定、附則第九條中農業協同組合法(昭和二十二年法律第百三十二号)第五十二條第一項の改正規定、附則第十條中証券取引法(昭和二十三年法律第二十五号)第五十三條第三項の改正規定及び同条第四項を削る改正規定、附則第十一條中水産業協同組合法(昭和二十三年法律第二百四十二号)第五十六條第一項の改正規定、附則第十二條中協同組合による金融事業に関する法律(昭和二十四年法律第百八十三号)第五條の五の次に一條を加える改正規定及び同法第十二條第一項の改正規定、附則第十三條中船主相互保險組合法(昭和二十五年法律第百七十七号)第四十二條第一項の改正規定、附則第十六條中信用金庫法(昭和二十六年法律第二百三十八号)第五十五條の三第三項及び第五十七條第一項の改正規定、附則第十八條中労働金庫法(昭和二十八年法律第二百二十七号)第六十一條第一項の改正規定、附則第二十三條中銀行法(昭和五十六年法律第五十九号)第七十七條の二第三項の改正規定及び同条第四項を削る改正規定、附則第二十六條の規定、附則第二十七條中保険業法(平成七年法律第百五号)第十五條に一項を加える改正規定、同法第五十五條第一項及び第二項、第百二十二條第一項並びに第百二十二條の二第三項の改正規定、同条第四項を削る改正規定、同法第百五十五條第二項、第百八十八條第一項、第百九十九條及び第百九十九條の改正規定並びに同法附則第五十九條第二項及び附則第九十條第二項を削る改正規定、附則第二十九條中株式の消却の手續に関する商法の特例に関する

法律(平成九年法律第五十五号)第七條第二項の改正規定並びに附則第三十一條中特定目的会社による特定資産の流動化に関する法律(平成十年法律第百五号)第百一條第一項及び第百二條第三項の改正規定は、平成十二年四月一日から施行する。
附則 (平成二十一年二月二日法律第一六〇号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律(第二条及び第三条を除く。)は、平成十三年一月六日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
一 第九百九十五条(核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の一部を改正する法律附則の改正規定に係る部分に限る。)、第千三百五十五條、第千三百六十六條、第千三百二十四條第二項、第千三百二十六條第二項及び第千三百四十四條の規定 公布の日
二 第三章(第三条を除く。)及び次条の規定 平成十二年七月一日
附則 (平成二十二年五月三十一日法律第九三号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律は、平成十三年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
一 略
二 第一条、第二条、第四条及び第五条並びに附則第二条、第三条、第四条第二項、第十三條、第十八條、第十九條、第二十三條及び第二十四條の規定 公布の日から起算して、一月を超えない範囲内において政令で定める日
三 附則第二十二條の規定(中央省庁等改革関係係法施行法(平成十一年法律第百六十号)第五十三條の改正規定に限る。) 平成十二年七月一日
四 附則第十條第一項、第十四條及び第二十二條の規定(中央省庁等改革関係法施行法第五十三條の改正規定を除く。) 平成十三年一月六日
(罰則の適用に関する経過措置)
第二十三條 この法律の各改正規定の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる事項に係る各改正規定の施行後にした行為に対する罰則の適用については、それぞれなお従前の例による。

(その他の経過措置の政令への委任)
第二十四条 附則第二条から第十二条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に際し必要な経過措置は、政令で定める。

附則 (平成二十三年六月二十九日法律第八〇号)

この法律は、商法等改正法の施行の日から施行する。
附則 (平成二十三年六月二十九日法律第九三号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年一月一日から施行する。
附則 (平成二十三年六月二十九日法律第九四号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年一月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
一 略
二 第二条の規定、第四条中農水産業協同組合貯金保険法第九十四條第三項の改正規定(「第三十條第三項及び第九項並びに第三十條の二第四項」を「第三十條第四項及び第十項並びに第三十條の二第五項」に改める部分に限る。)、附則第十二條から第十五條までの規定及び附則第三十三條中協同組織金融機関の優先出資に関する法律(平成五年法律第四十四号)第三十六條第二項の改正規定 平成十五年四月一日
附則 (平成二十三年十一月二十八日法律第一二九号) 抄
(施行期日)
1 この法律は、平成十四年四月一日から施行する。
(罰則の適用に関する経過措置)
2 この法律の施行前にした行為及びこの法律の規定により従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。
附則 (平成二十三年十一月二日法律第一五〇号)
この法律は、商法及び株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律の一部を改正する法律の施行の日から施行する。ただし、第二十一条第五項の規定は同法附則第一条ただし書に掲げる改正規定の施行の日から、第二十四条の規定は公布の日から施行する。

この法律は、公布の日から起算して五年を超えない範囲内において政令で定める日(以下「施行日」という。)から施行する。ただし、第一条中社債等の振替に関する法律第四十八條の表第三十三條の項を削る改正規定、同表第八十九條第二項の項の次に第九十條第一項の項を加える改正規定、同法第百十五條、第百八十八條、第百二十一條及び第百二十三條の改正規定、第百二十八條の改正規定(同法第六章の次に七章を加える改正規定(第百五十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項、第二百五十二條第一項(同項において準用する第百五十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項)に係る部分に限る。)、第二百五十三條、第二百六十一條第一項(同項において準用する第百五十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項)に係る部分に限る。)、第二百六十二條、第二百六十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項に係る部分に限る。)、第三項及び第四項(並びに同法附則第十九條の表の改正規定(「第百十一條第一項」を「第百十一條」に改める部分に限る。))、同法附則第三十三條の改正規定(「同法第一条第二項」を「投資信託及び投資法人に関する法律第二条第二項」に改める部分に限る。)、第二条の規定、第三条の規定(投資信託及び投資法人に関する法律第九條第三項の改正規定を除く。)、第四條から第七條までの規定、附則第三條から第二十九條まで、第三十四條(第一項を除く。)、第三十六條から第四十

附則 (平成二十四年五月二十九日法律第四五号) 抄
(施行期日)
1 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
附則 (平成二十四年六月十九日法律第七五号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律は、平成十五年一月一日から施行する。
附則 (平成二十六年六月九日法律第八八号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して五年を超えない範囲内において政令で定める日(以下「施行日」という。)から施行する。ただし、第一条中社債等の振替に関する法律第四十八條の表第三十三條の項を削る改正規定、同表第八十九條第二項の項の次に第九十條第一項の項を加える改正規定、同法第百十五條、第百八十八條、第百二十一條及び第百二十三條の改正規定、第百二十八條の改正規定(同法第六章の次に七章を加える改正規定(第百五十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項、第二百五十二條第一項(同項において準用する第百五十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項)に係る部分に限る。)、第二百五十三條、第二百六十一條第一項(同項において準用する第百五十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項)に係る部分に限る。)、第二百六十二條、第二百六十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項に係る部分に限る。)、第三項及び第四項(並びに同法附則第十九條の表の改正規定(「第百十一條第一項」を「第百十一條」に改める部分に限る。))、同法附則第三十三條の改正規定(「同法第一条第二項」を「投資信託及び投資法人に関する法律第二条第二項」に改める部分に限る。)、第二条の規定、第三条の規定(投資信託及び投資法人に関する法律第九條第三項の改正規定を除く。)、第四條から第七條までの規定、附則第三條から第二十九條まで、第三十四條(第一項を除く。)、第三十六條から第四十

この法律は、公布の日から起算して五年を超えない範囲内において政令で定める日(以下「施行日」という。)から施行する。ただし、第一条中社債等の振替に関する法律第四十八條の表第三十三條の項を削る改正規定、同表第八十九條第二項の項の次に第九十條第一項の項を加える改正規定、同法第百十五條、第百八十八條、第百二十一條及び第百二十三條の改正規定、第百二十八條の改正規定(同法第六章の次に七章を加える改正規定(第百五十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項、第二百五十二條第一項(同項において準用する第百五十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項)に係る部分に限る。)、第二百五十三條、第二百六十一條第一項(同項において準用する第百五十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項)に係る部分に限る。)、第二百六十二條、第二百六十八條第二項(第二号から第四号までを除く。)、第三項及び第四項に係る部分に限る。)、第三項及び第四項(並びに同法附則第十九條の表の改正規定(「第百十一條第一項」を「第百十一條」に改める部分に限る。))、同法附則第三十三條の改正規定(「同法第一条第二項」を「投資信託及び投資法人に関する法律第二条第二項」に改める部分に限る。)、第二条の規定、第三条の規定(投資信託及び投資法人に関する法律第九條第三項の改正規定を除く。)、第四條から第七條までの規定、附則第三條から第二十九條まで、第三十四條(第一項を除く。)、第三十六條から第四十

三条まで、第四十七条、第五十条及び第五十一条の規定、附則第五十九条中協同組合による金融事業に関する法律（昭和二十四年法律第八十三号）第四条の四第一項第三号の改正規定、附則第七十条、第八十五条、第八十六条、第九十五条及び第九十九条の規定、附則第一百二十二条中金融機関等の更生手続の特例等に関する法律（平成八年法律第九十五号）第二百二十六条の改正規定、附則第二百二十条から第二百二十二条までの規定、附則第二百二十三条中産業活力再生特別措置法（平成十一年法律第三十一号）第十二条の八第三項及び第十二条の十一第七項の改正規定、附則第二百五十五条の規定並びに附則第二百二十九条中会社更生法（平成十四年法律第五百四十四号）第二百五条第四項及び第二百四十四条の改正規定は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日（以下「一部施行日」という。）から施行する。

（協同組織金融機関の優先出資に関する法律の一部改正に伴う経過措置）

第三十八条 優先出資（第四条の規定による改正前の協同組織金融機関の優先出資に関する法律（以下この条において「旧優先出資法」という。）第三項第一項に規定する優先出資をいう。以下この条において同じ。）の消却をしようとする協同組織金融機関（旧優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関をいう。以下この条において同じ。）が一部施行日前に旧優先出資法第十五条第五項において準用する旧商法第二百五十五条第一項の規定による公告又は通知をした場合においては、新優先出資法第十五条第五項において準用する新商法第二百五十五条ノ二の規定にかかわらず、なお従前の例による。

も、当該閉鎖期間の満了の時までは、同項の協同組織金融機関は、優先出資者名簿（新優先出資法第二十四条に規定する優先出資者名簿をいう。）の記載の変更を行わないことができる。

4 前項に規定する場合において、閉鎖期間を定めた協同組織金融機関が新優先出資法第十六条第五項において準用する新商法第二百二十九条第一項及び新優先出資法第六条第五項において準用する新商法第二百八十条ノ四第三項に規定する一定の日を定めようとするときは、その日は、閉鎖期間満了の日後の日でなければならぬ。

5 一部施行日において閉鎖期間を指定する旨の定款の定めがある協同組織金融機関であつて旧優先出資法第二十五条において準用する旧商法第二百二十四条ノ三第一項の一定の日を指定する旨の定款の定めがないものについては、一部施行日において、優先出資者（新優先出資法第十二条第一項に規定する優先出資者をいう。第七項において同じ。）又は質権者として権利を行使すべき者を定めるため、当該閉鎖期間の初日の前日を旧優先出資法第二十五条において準用する旧商法第二百二十四条ノ三第一項の一定の日に指定する旨の定款の変更の決議があつたものとみなす。この場合においては、理事（新優先出資法第二条第七項に規定する理事をいう。）の決定をもつて、当該権利の内容を定めなければならない。

6 一部施行日前に旧優先出資法第三十条において準用する旧商法第二百二十六条ノ二第二項の規定により寄託された優先出資証券（旧優先出資法第二十八条第一項に規定する優先出資証券をいう。）については、なお従前の例による。

7 一部施行日の前日を払込期日として優先出資の発行をした場合においては、当該優先出資の引受人は、一部施行日から優先出資者となる。（罰則の適用に関する経過措置）

第三百三十五条 この法律（附則第一条ただし書に規定する規定については、当該規定。以下この条において同じ。）の施行前にした行為並びにこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合及びなおその効力を有することとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（その他の経過措置の政令への委任）

第三百三十六条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に必要なる経過措置は、政令で定める。

3 旧優先出資法第二十五条において準用する旧商法第二百二十四条ノ三第一項に規定する一定期間（以下この条において「閉鎖期間」という。）が一部施行日前に進行を開始し、一部施行日以後に満了する場合には、一部施行日以後

（検討）

第三百三十七条 政府は、この法律の施行後五年を経過した場合において、この法律による改正後の規定の実施状況、社会経済情勢の変化等を勘案し、この法律による改正後の株式等の取引に係る決済制度について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。

附則（平成一六年六月一八日法律第一〇七号）抄

第一条 この法律は、平成一七年四月一日から施行する。

附則（平成一六年二月一日法律第一四七号）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則（平成一六年二月三日法律第一五二号）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（罰則の適用に関する経過措置）

第三十九条 この法律の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（政令への委任）

第四十条 附則第三条から第十条まで、第二十九条及び前二条に規定するもののほか、この法律の施行に必要なる経過措置は、政令で定める。

附則（平成一六年二月一〇日法律第一六五号）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、附則第四条及び第五条の規定は、公布の日から施行する。

附則（平成一七年七月二六日法律第八七号）抄

この法律は、会社法の施行の日から施行する。

附則（平成一八年六月二日法律第五〇号）抄

この法律は、一般社団・財団法人法の施行の日から施行する。

附則（平成一八年六月一四日法律第六六号）抄

この法律は、平成一八年証券取引法改正法の施行の日から施行する。

附則（平成一八年二月一五日法律第一〇九号）抄

この法律は、新信託法の施行の日から施行する。

附則（平成一九年六月一日法律第七四号）抄

第一条 この法律は、平成二十年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 附則第三条から第二十五条まで、第二十五条から第三十条まで、第一百一条及び第二百二条の規定 公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日

（処分等に関する経過措置）

第一百条 この法律の施行前に改正前のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。以下この条において同じ。）の規定によつてした処分、手続その他の行為であつて、改正後のそれぞれの法律の規定に相当の規定があるものは、この附則に別段の定めがあるものを除き、改正後のそれぞれの法律の相当の規定によつてしたものとみなす。

（罰則の適用に関する経過措置）

第一百一条 この法律（附則第一条各号に掲げる規定にあつては、当該規定。以下この条において同じ。）の施行前にした行為並びにこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合及びこの附則の規定によりなおその効力を有することとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（その他の経過措置の政令への委任）

第一百二条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に伴い必要なる経過措置は、政令で定める。

附則（平成一九年六月八日法律第七八号）抄

附則（平成一九年六月八日法律第七八号）抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成二十年四月一日から施行する。

附則 (平成二〇年六月一三日法律第六五号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(罰則の適用に関する経過措置)
第四十条 この法律(附則第一条各号に掲げる規定)については、当該規定。以下この条において同じ。)の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(政令への委任)
第四十一条 附則第二条から第十九条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則 (平成二三年六月二四日法律第七四号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。

附則 (平成二六年六月二七日法律第九一号) 抄

この法律は、会社法の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則 (平成二七年九月四日法律第六三号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成二十八年四月一日から施行する。

(罰則に関する経過措置)
第一百十四条 この法律の施行前にした行為並びにこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合及びこの附則の規定によりなおその効力を有することとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附則 (平成三〇年二月一四日法律第九五号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 (令和元年二月二一日法律第七一号) 抄

この法律は、会社法改正法の施行の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 一 第九条中社債、株式等の振替に関する法律第二百六十九條の改正規定(「第六十八條第二項」を「第八十六條第一項」に改める部分に限る。)、第二十一条中民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律第五十六條第二項及び附則第四条の改正規定、第四十一条中保険業法附則第一条の二十四第一項の改正規定、第四十七條中保険業法等の一部を改正する法律附則第十六條第一項の改正規定、第五十一条中株式会社海外通信・放送・郵便事業支援機構法第二十七條の改正規定、第七十八條及び第七十九條の規定、第八十九條中農林中央金庫及び特定農水産業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法律附則第二十六條第一項の改正規定並びに第二百二十四條及び第二百二十五條の規定 公布の日

二 略

三 第一条中外国法人の登記及び夫婦財産契約の登記に関する法律第四条の改正規定(並びに第三百二十二條)を、「第三百二十二條から第三百三十七條まで並びに第三百三十九條」に改める部分に限る。、第三条から第五条までの規定、第六條中商業登記法第七条の二、第十一条の二、第十五條、第十七條及び第十八條の改正規定、同法第四十八條の前の見出しを削る改正規定、同條から同法第五十條まで並びに同法第八十二條第二項及び第三項の改正規定、同法第四項の改正規定(「本店の所在地における」を削る部分に限る。)、同法第八十七條第一項及び第二項並びに第九十一條第一項の改正規定、同法第二項の改正規定(「本店の所在地における」を削る部分に限る。)、並びに同法第九十五條、第九十一条、第九十八條及び第九十九條の改正規定、第九條中社債、株式等の振替に関する法律第五十一條第二項第一号の改正規定、同法第五十五條第一項の改正規定(「以下この条」の下に「及び第九十九條の二第二項第四号」を加える部分に限る。)、同法第五十九條の次に一條を加える改正規定、同法第二百二十八條第二項の表第五十九條第三項第一号の項の次に次のように加える改正規定、同法第二百三十五條第一項の改正規定(「まで」の下に「第

百五十九條の二第二項第四号」を加える部分に限る。)、同法第二項の表第五十九條第一項の次に次のように加える改正規定及び同法第二百三十九條第二項の表に次のように加える改正規定、第十條第二項から第二十三項までの規定、第十一条中会社更生法第二百六十一條第一項後段を削る改正規定、第十四條中会社法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第四十六條の改正規定、第十五條中一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の目次の改正規定(「従たる事務所の所在地における登記(第三百二十二條―第三百十四條)」を「削除」に改める部分に限る。)、同法第四十七條の次に五條を加える改正規定、同法第三百一条第二項第四号の次に一號を加える改正規定、同法第六章第四節第三款、第三百十五條及び第三百二十九條の改正規定、同法第三百三十條の改正規定(「第四十九條から第五十二條まで」を「第五十一條、第五十二條」に、「及び第三百三十二條」を、「第三百三十二條から第三百三十七條まで及び第三百三十九條」に改め、「支店」とあるのは「従たる事務所」と)、削る部分に限る。、並びに同法第三十四條第十号の次に一號を加える改正規定、第四十七條中信託法第二百四十七條の改正規定(「第三項を除く。)、第十八條」を削る部分に限る。)、第三十八條の規定(前号に掲げる改正規定を除く。)、第二十二條及び第二十三條の規定、第二十五條中金融商品取引法第八十九條の三の改正規定、同法第八十九條の四第二項を削る改正規定、同法第九十條の改正規定(「第十七條から」の下に「第十九條の三まで、第二十一條から」を加え、「第十五號及び第十六號」を「第十四號及び第三項」に改める部分、及び「読み替える」を「読み替える」に改める部分、及び「商業登記法(とあるのは「金融商品取引法第九十條において準用する商業登記法第四十五條」と読み替える)に改める部分を除く。、同法第九十條の四、第九十一條の二十第一項、第九十二条第一項及び第九十二条の十の改正規定、同法第九十二条の十一の改正規定(「第十七條から」の下に「第十九條の三まで、第二十一條から」を加え、「第十五號及び第十六號」を「第十四號及び第十五號」に改める部分、及び「第二十條

第三項」を削る部分及び「読み替える」を「同法第四十六條の二中「商業登記法(とあるのは「金融商品取引法(昭和二十三年法律第二十五號) 第九十一條の十一において準用する商業登記法(とあるのは「商業登記法第四十五條」とあるのは「金融商品取引法第九十一條の十一において準用する商業登記法第四十五條」と読み替える)に改める部分を除く。、並びに同法第四十五條第一項及び第九十六條の改正規定、第二十七條中損害保険料率算出団体に関する法律第二十三條から第二十四條の二までの改正規定及び同法第二十五條の改正規定(「第二十三條の二まで」を「第十九條の三まで(登記申請の方式、申請書の添付書面、申請書に添付すべき電磁的記録、添付書面の特例、第二十一條から」に、「第十五號及び第十六號」を「第十四號」に改める部分を除く。)、第三十二条中投資信託及び投資法人に関する法律第九十四條第一項の改正規定(「第三百五條第一項本文及び第四項」の下に「から第六項まで」を加える部分を除く。)、同法第九十六條第四項の改正規定、同法第九十六條第二項第八号の次に一號を加える改正規定、同法第九十七條の改正規定(「第二十二條第一項及び第二項」を削る部分及び「同法第二十四條第七号中「若しくは第三十條第二項若しくは」とあるのは「若しくは」とを削り、「第九十七條」とあるのは「若しくは」とを削り、「第九十七條」とあるのは「同法第九十六條の二中「商業登記法(とあるのは「投資信託及び投資法人に関する法律(昭和二十六年法律第九十八號) 第九十七條において準用する商業登記法(とあるのは「商業登記法第九十五條」とあるのは「投資信託及び投資法人に関する法律第七十七條において準用する商業登記法第七十七條」を加える部分を除く。、及び同法第二百四十九條第九号の次に一號を加える改正規定、第三十四條中信用金庫法の目次の改正規定(「第四十八條の八」を「第四十八條の十三」に改める部分に限る。)、同法第四十六條第一項の改正規定、同法第四章第七節中第四十八條の八の次に五條を加える改正規定、同法第六十五條第二項、第七十四條から第七十六條まで及び第七十七條第四項の改正規定、同法第八十五條の改正規定(前号に掲げる部分を除く。)、同法第八十七條の四第四項の改正規定並びに同法第九十一条第一項第十二号の次に一號を加える改正規定、第三十六條中労働金庫法第七十八條から

第八十条まで及び第八十一条第四項の改正規定並びに同法第八十九条の改正規定(前号に掲げる部分を除く。)、第三十八条中金融機関の合併及び転換に関する法律第六十四条第一項の改正規定、第四十条の規定(同条中協同組織金融機関の優先出資に関する法律第十四条第二項及び第二十二條第五項第三号の改正規定を除く。)、第四十一条中保険業法第四十一条第一項の改正規定、同法第四十九条第一項の改正規定(「規定中」を「規定(同法第二百九十八条(第一項第三号及び第四号を除く。)、第三百十一条第四項並びに第五項第一号及び第二号、第三百十二条第五項並びに第六項第一号及び第二号、第三百二十四条、第三百八条第四項、及び第三十二條第二号並びに第三十三條第二号の五第二項を除く。))中「株主」とあるのは「総代」と、これらの規定(同法第二百九十九条第一項及び第三百二十五条の三第一項第五号を除く。))中「に改め、」とあり、及び「取締役会設置会社」を削り、「相互会社」と、の下に「これらの規定中」を加え、「これらの規定(同法第二百九十八條第一項(各号を除く。))及び第四項、第三百十一条第四項、第三百十二条第五項、第三百十四條並びに第三百十八條第四項を除く。))中「株主」とあるのは「総代」とを削り、「各号を除く。))及び第四項中」を「第三号及び第四号を除く。))中「前条第四項」とあるのは「保険業法第四十五条第二項」と、「株主」とあるのは「社員又は総代」と、「次項本文及び次条から第三十二条まで」とあるのは「次条及び第三十条」と、同条第四項中「取締役会設置会社」とあるのは「相互会社」と、に、「第三百十一条第四項及び第三百十二条第五項」を「第三百十一条第一項中「議決権行使書面に」とあるのは「議決権行使書面(保険業法第四十八条第三項に規定する議決権行使書面をいう。以下同じ。))」に、同条第四項並びに第五項第一号及び第二号並びに同法第三百十二条第五項並びに第六項第一号及び第二号」に改め、「共同」を削る部分を除く。))、同法第六十四条第二項及び第三項の改正規定、同法第六十七条の改正規定(「第四十八条」を「第五十一条」に改め、「支店所在地における登記」を削り、「登記」並びに「」に、「第四百八十八条」を「第三百七十七條」に、「職権抹消、」を「職権抹消」並びに第三百九十九條から第四百八条まで(「に改める部分及び「第四十八條から第五

十三條までの規定中「本店」とあるのは「主たる事務所」と、「支店」とあるのは「従たる事務所」と、「第四十七條第三項中「前項」とあるのは「保険業法第六十四条第三項」と、同法第五十五条第一項中「会社法第三百四十六條第四項」とあるのは「保険業法第五十三条の十二第四項」と、同法第四百四十六條の二中「商業登記法」とあるのは「保険業法(平成七年法律第百五号)第六十七條において準用する商業登記法」と、「商業登記法第六十七條」において準用する商業登記法第六十七條において準用する商業登記法第四百四十五條」と、同法第四百四十八條中「この法律に」とあるのは「保険業法に」と、「この法律の施行」とあるのは「相互会社に関する登記」に改める部分に限る。))、同法第八十四条第一項並びに第九十六條の十四第一項及び第二項の改正規定、同法第九十六條の十六第四項の改正規定(並びに「及び」に改め、「及び第四項」を削る部分に限る。))、同法第六百六十九條の五第三項を削る改正規定、同法第七百七十一條及び第七百八十三條第二項の改正規定、同法第二百六十六條の改正規定(「を削り、「第十一項及び第二項(印鑑の提出)」を削り、「第十一項及び第二項」を「第十号及び第九号」に改める部分及び「において」の下に「、同法第十二條第一項第五号中「会社更生法(平成十四年法律第百五十四号)」とあるのは「金融機関等の更生手続の特例等に関する法律」と)を加える部分を除く。))並びに同法第三百三十三條第一項第十七條の次に一号を加える改正規定、第四十三條中金融機関等の更生手続の特例等に関する法律第六十二條第一項後段を削る改正規定並びに同法第三百三十五條第一項後段及び第三百五十五條第一項後段を削る改正規定、第四十五條中資産の流動化に関する法律第二十二條第二項第七號の次に一号を加える改正規定、同条第四項を削る改正規定、同法第六百五十五條第三項の改正規定、同法第八十三條第一項の改正規定(「第二十七條」を「第十九條の三」に、「印鑑の提出、」を「第二十一条から第二十七條まで(「に改める部分、」同法第二十四條第七号中「書面若しくは第三十条第二項若しくは第三十一条第二項に規定する譲渡人の承諾書」とあるのは「書面」と)を削る部分及び「準用する会社法第五百七條第三項」との下に「、同法第四百六十六條の二中「商業登記法」とあるのは「資産の流動化に

関する法律(平成十年法律第百五号)第八十条第三條第一項において準用する商業登記法(「資産の流動化に関する法律第百八十三條第一項において準用する商業登記法第百四十五條」と)を加える部分を除く。))及び同法第三百二十六條第一項第十七號の次に一号を加える改正規定、第四十八條の規定、第五十条中政党交付金の交付を受ける政党等に対する法人格の付与に関する法律第十五條の三の改正規定(「第三項を除く。))を削る部分に限る。))、第五十一条第五十三條及び第五十五條の規定、第五十六條中酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律第二十二條の改正規定(「、同法第九百三十七條第一項中「第九百三十條第二項各号」とあるのは「酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律第六十七條第二項各号」と)を削る部分に限る。))、同法第三十九條、第五十六條第六項、第五十七條及び第六十七條から第六十九條までの改正規定、同法第七十八條の改正規定(前号に掲げる部分を除く。))並びに同法第八十三條の改正規定、第五十八條及び第六十一条の規定、第六十七條の規定(前号に掲げる部分を除く。))、第六十九條中消費生活協同組合法第八十一条から第八十三條まで及び第九十條第四項の改正規定並びに同法第九十二條の改正規定(前号に掲げる部分を除く。))、第七十一条中医療法第四十六條の三の六及び第七十條の二十一第六項の改正規定並びに同法第九十三條の改正規定(同条第四号中「第五十一条の三」を「第五十一条の三第一項」に改める部分を除く。))、第七十七條の規定、第八十條中農村負債整理組合法第二十四條第一項の改正規定(「第十七條(第三項ヲ除ク)」を「第十七條」に改める部分に限る。))、第八十一条中農業協同組合法第三十六条第七項の改正規定、同法第四十三條の六の次に一号を加える改正規定、同法第四十三條の七、第三項の改正規定及び同法第一百一条第一項第四十號の次に一号を加える改正規定、第八十三條中水産業協同組合法第四十條第七項の改正規定、同法第四十七條の五の次に一号を加える改正規定、同法第八十六條第二項の改正規定及び同法第九十條第一項第三十八號の次に一号を加える改正規定、第八十五條中漁船損害等補償法第七十一条から第七十三條までの改正規定及び同法第八十三條の改正規定(前号に掲げる部分を除く。))、第八十七條中森林組合法第五十條

第七項の改正規定、同法第六十條の三の次に一号を加える改正規定、同法第六十條の四第三項及び第九十條第二項の改正規定並びに同法第二百一十二條第一項第十二號の次に一号を加える改正規定、第八十九條中農林中央金庫及び特定農水産業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法律第二十二條第二項の改正規定、第九十條中農林中央金庫法第四十六條の三の次に一号を加える改正規定、同法第四十七條第三項の改正規定及び同法第百條第一項第十六號の次に一号を加える改正規定、第九十三條中中小企業等協同組合法の目次の改正規定、同法第四章第二節第一款及び第二款の款名を削る改正規定、同法第九十三條から第九十五条まで、第九十六條第四項及び第九十七條第一項の改正規定並びに同法第九十七條の改正規定(「、第四十八條」を「第五十一条」に、「並びに第三百三十二條」を「第三百三十二條から第三百三十七條まで並びに第三百三十九條」に改める部分及び「同法第四十八條第二項中「会社法第九百三十條第二項各号」とあるのは「中小企業等協同組合法第九十三條第二項各号」と)を削る部分に限る。))、第九十六條の規定(同条中商品先物取引法の改正規定(前号に掲げる部分に限る。))並びに同法第五十八條、第七十七條第二項及び第九十四條の十一第二項の改正規定を除く。))、第九十八條中輸出入取引法第十九條第一項の改正規定(「第八項」の下に「、第三十八條の六」を加える部分を除く。))、第百條の規定(同条中中小企業団体の組織に関する法律第百十三條第一項第十三號の改正規定を除く。))、第百二條中技術研究組合法の目次の改正規定、同法第八章第二節の節名の改正規定、同章第三節、第百五十九條第三項から第五項まで及び第六十條第一項の改正規定並びに同法第六十八條の改正規定(「、第四十八條」を「第五十一条」に、「並びに第三百三十二條」を「第三百三十二條から第三百三十七條まで並びに第三百三十九條」に改め、「第四十八條第二項中「会社法第九百三十條第二項各号」とあるのは「技術研究組合法第百五十六條第二項各号」と、同法第五十條第一項、」を削る部分に限る。))、第百七條の規定(前号に掲げる改正規定を除く。))並びに第百十一条の規定(前号に掲げる改正規定を除く。))会社法改正法附則第一条ただし書に規定する規定の施行の日

附 則 (令和四年五月二五日法律第四八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して四年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 一 第三条の規定並びに附則第六十条中商業登記法(昭和三十八年法律第二百二十五号)第五十二条第二項の改正規定及び附則第二百二十五条の規定 公布の日

(罰則に関する経過措置)

第二百二十四条 この法律の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(政令への委任)

第二百二十五条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (令和四年六月一七日法律第六八号) 抄

(施行期日)

1 この法律は、刑法等一部改正法施行日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 一 第五百九条の規定 公布の日